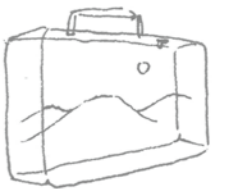


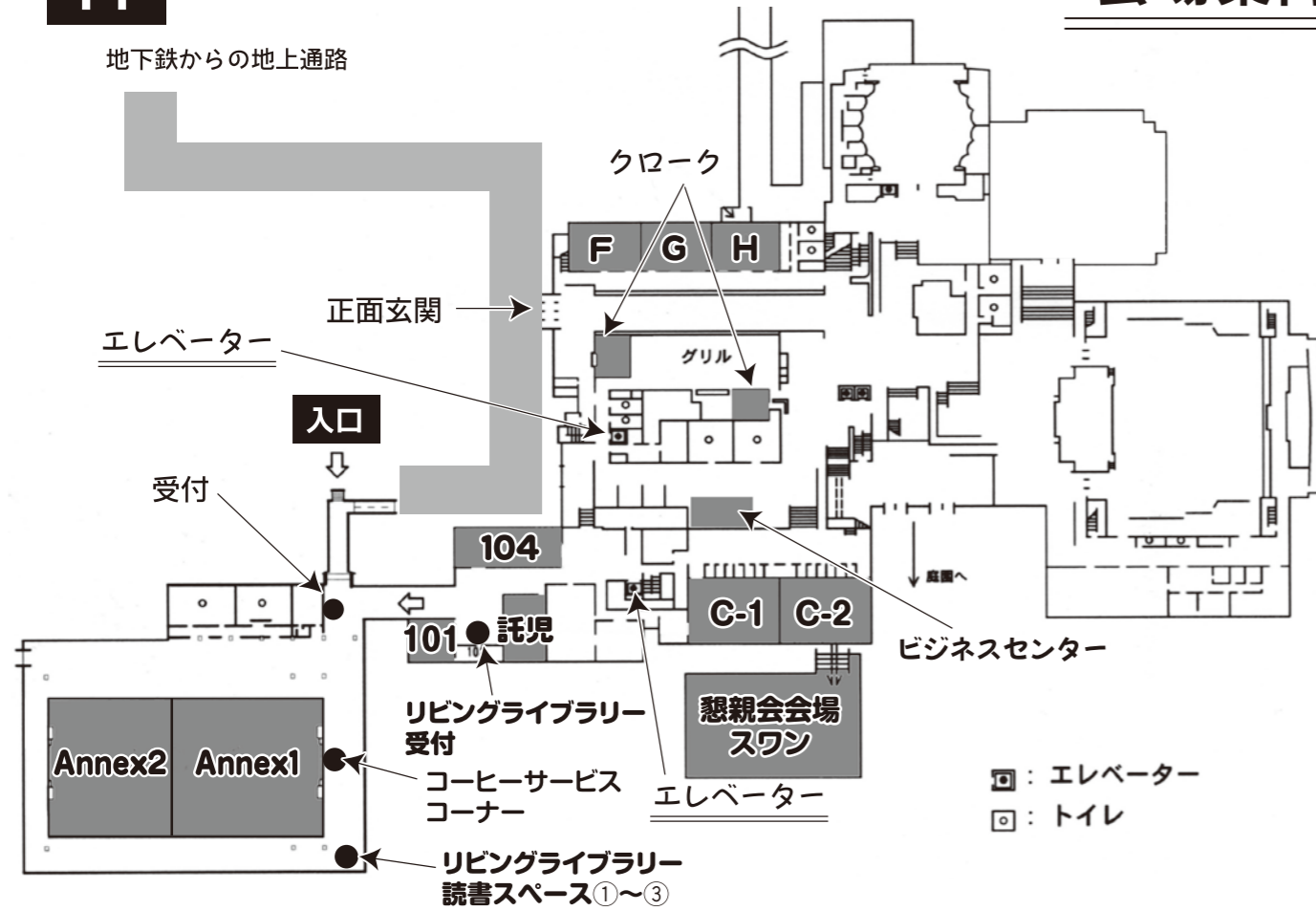
ATAC 2010

Assistive Technology &
Augmentative Communication
Conference 2010

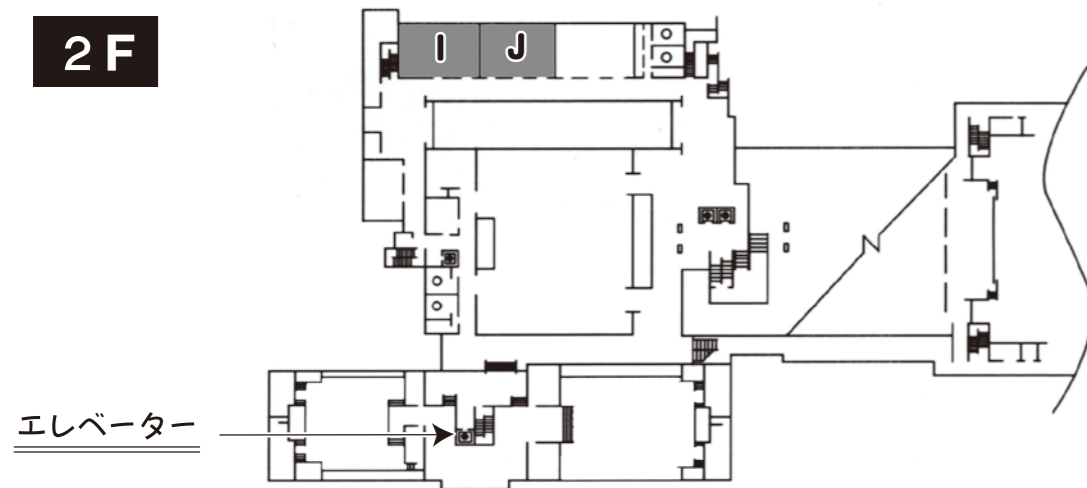


会場案内

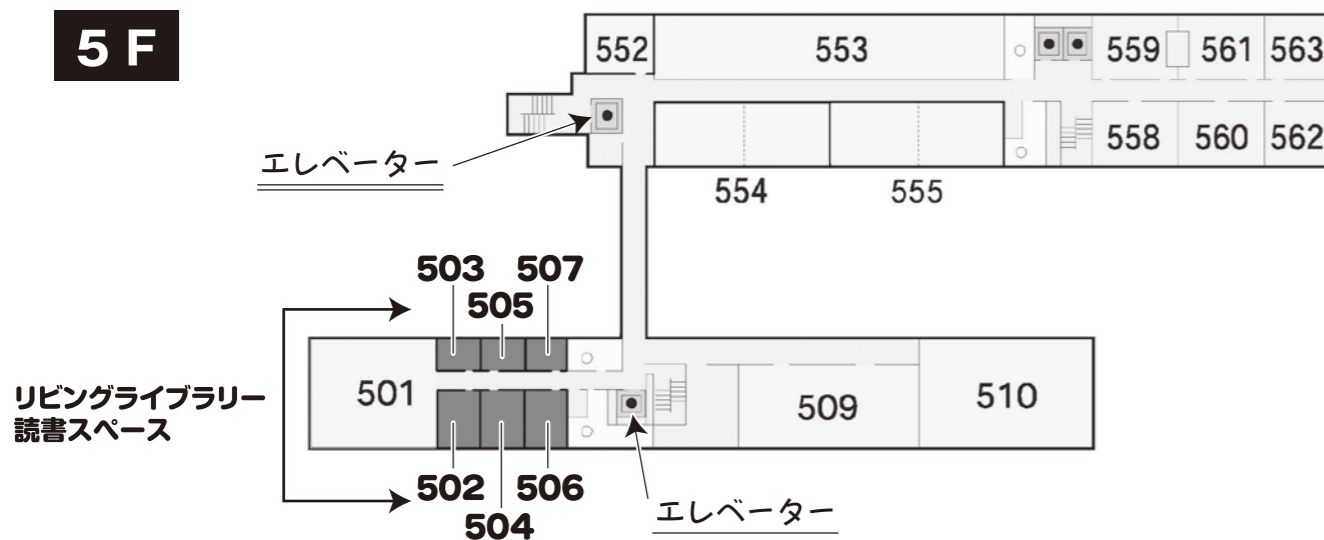
1F



2F



5F



ATACカンファレンスとは？

ATACカンファレンスは障害や病気のある人の生活を支援するために、特別支援教育や福祉の現場で求められる思想や技術(コミュニケーション技法とテクノロジー)、また周辺の課題とその解決策を分かりやすく伝える会として1996年からスタートしたカンファレンスです。

「障害があっても自己決定できれば生活の質が向上する」、「重い障害があっても子ども達は普通学校の中で学ぶことで成長することができる」といった考えに共感する人も多いと思います。しかし、理念だけでは、実際の生活はなかなか変わりません。今、求められているのは、それを現実のものとするための技術(テクノロジー)と技法(テクニック)であると思います。そこでATACカンファレンスは、それについて分かりやすく学んでいただける場を提供しようという気持ちからスタートしました。

一方、技術や技法を活かすには、障害、福祉、教育に関する見かたについても我々が偏りのない知識を持っておくべきだと考えています。ATACカンファレンス2010では、AT(支援技術)とAAC(コミュニケーション技法)に関する数多くのセミナーが実施されます。主体は参加者の方々です。自由にお好きなセミナーを選んで学んで下さい。1つの技術や技法がいつでもどこでも最良であるとは限りません。人や場面が変わればその方法が最悪なものになる可能性もあります。いろいろな視点から問題を見て、多くの方法の中から最適な技術や技法を選択できることが大切だと思います。このカンファレンスが、いろいろな視点をもっといただく良い機会になればと思います。

セミナーに司会者はいません。各セミナーの講師の方々に進行はおまかせしています。講師や他の参加者の方々と自由にコミュニケーションをとりながら楽しく学んで下さい。

節目を迎えたATACカンファレンス 「閉塞した社会の扉を開く」

80年代後半からパソコンが普及し始めた頃、未来の暮らしを大きく変える可能性があるという期待したものです。障害のある人には特大の期待があったと思います。それから20年がたち、インターネットの普及、社会のバリアフリー化、UD製品の拡大など確かに生活は快適に便利になりました。しかし、社会に蔓延する閉塞感の中で障害の有無にかかわらず将来に不安を抱く人も多いのではないかと思います。障害手帳を有していない人たちもなんらかの困難を抱える社会に移行しつつあります。障害のある人たちも新しいITツールを手にして社会にチャレンジしてきたけれどそれ以上に社会の壁が厚くなってきているのではないのでしょうか。ATACカンファレンス2010は、過去を振り返り、反省し、新しい枠組みでこれからの特別支援教育や福祉を考える節目の会にしたいと考えています。

もくじ

ATACカンファレンスとは?.....	1
参加についてのご案内.....	3
セミナー・イベントについてのご案内.....	4
プログラム	
12月10日(金) [プリカンファレンス].....	5
12月11日(土) [メインカンファレンス].....	6~7
12月12日(日) [メインカンファレンス].....	8~9
セミナー要旨	
12月11日(土) [メインカンファレンス].....	10~13
12月12日(日) [メインカンファレンス].....	14~18
リビングライブラリー.....	19
一般発表(ポスター発表)、書籍展示.....	20~21

ATAC2010

「閉塞した社会の扉を開く」

プリカンファレンス
2010/12/10 (fri)
10:00—16:45 (9:30受付開始)

メインカンファレンス
2010/12/11 (sat)
9:45—16:50 (9:15受付開始)
17:00—19:00 (レセプション)

2010/12/12 (sun)
9:10—15:30 (9:00受付開始)

参加についてのご案内

受付について

- ・ATACカンファレンス受付は、京都国際会館アネックスホール入口にあります。京都国際会館正面玄関とは異なりますのでご注意ください。
- ・受付にてお名前をお伝えください。名札ストラップ及び領収書、関係資料等をお渡しします。
- ・この名札ストラップによってATACカンファレンスの参加者と認められますので、開催期間中、会場内では、必ず着用して下さい。

セミナーへの参加について

- ・12/10(金)のプリカンファレンスは、事前登録制となっております。事前にご登録いただいたコース以外の受講はできませんので、ご了承下さい。
- ・12/11(土)、12/12(日)のメインカンファレンスでは、複数のセミナーが同時に行われています。当日、ご自由に選択してご参加下さい。

テキストについて

- ・【**プリカンファレンス**】 受付にて配布します。テキストあるいは資料、ランチ代が、セミナー代に含まれています。
- ・【**メインカンファレンス (Proceeding)**】 受付横で1冊1,000円にて販売します。ご希望の方はお買い求め下さい。

クロークについて

- ・12/10(金)のプリカンファレンスにおいては、会館常設のクロークをご利用下さい。
- ・12/11(土)、12/12(日)のメインカンファレンスでは、ATACでもクロークを設けています(場所は裏面のマップにてご確認ください)。こちらでお荷物をお預かりしますが、貴重品については、各自での管理をお願いします。貴重品等の紛失・損傷・盗難等は、一切の責任を負いかねますことご了承下さい。
- ・12/11(土)のクロークのご利用時間は、**17:00まで**とさせていただきます。17:00からのレセプションに参加される場合は、必ず開始前にお荷物を引き取りの上、お荷物を持ってご参加下さい。

セミナーの撮影・録音について

- ・**セミナーは撮影・録音全面禁止**です(携帯電話での写真撮影もご遠慮下さい)。

食事について

- ・会館内にはレストラン「グリル」(営業時間10:00~17:00)があります。また、昼食時には受付近辺にてお弁当の販売も行っております。
- ・12/10(金)のプリカンファレンスにおいては、ランチ代が参加費に含まれておりますので、お弁当をご用意いたします。
- ・12/11(土)、12/12(日)のメインカンファレンスにおいては、アネックスホール横(ランチコーナー)にて、コーヒードーナツ等の販売も行っておりますので、どうぞご利用下さい。
- ・セミナー会場内での飲食は可能です。ごみの始末にご協力をお願いいたします。

リビングライブラリー

- ・今年もATACカンファレンスにて「リビングライブラリー」を開催します。リビングライブラリーではユニークな経験を積んだ人々を「生きている本」として30~45分間貸し出します(予約制)。この図書館は、様々な背景をもつ当事者と直接対話し、つながるチャンスにあふれています。ぜひリビングライブラリーに参加し、「生きている本」の語りに耳を傾けてみてください。別配布しましたご案内に蔵書リストが記載されています。リビングライブラリーの閲覧方法等の詳細につきましては、Room102前にございますリビングライブラリー受付でお尋ね下さい。

喫煙について

- ・会場内はホール、通路を含め禁煙です。指定場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

休養場所について

- ・ご気分が悪くなられた方、お子様のおむつ交換などのスペースをご希望の方は、受付までお越し下さい。

アンケートご記入のお願い

- ・当日、受付での関係資料の中にアンケートを同封しますので、ご記入をお願いします。お帰りの際に、受付横のボックスにお入れ下さい。
- ・アンケートをご提出された方の中から抽選で5名の方に「ATACカンファレンス2011」の参加費半額券を差し上げます。抽選結果は、半額券の発送をもって、発表とかえさせていただきます。

当日の連絡先

- ・カンファレンス期間中、ATACカンファレンス事務局へのお問い合わせは、**080-1032-1705**までお願いします。

受付 9:30～ アネックスホール入口

セミナー・イベントについてのご案内

❖ リビングライブラリー ～ココロのバリア、とかしてみませんか?～

(12/11(土) 12:00～15:30、12/12(日) 10:10～14:40)
(予約は 11日10:00より、12日9:00より開始します)

リビングライブラリーは2000年にデンマークで始まった活動です。この図書館では、ユニークな経験を積んだ人たちが「生きている本」として30分間貸し出します。読み手は、本を借りることで、30～45分間、語り部である本と対話を行うことができます。普段あまり接する機会の少ない本、以前から興味をもっていた本、全く聞いたことのない本など、様々な「生きている本」がみなさまをお待ちしております。今回は、脳性まひのお医者さん、薬物依存からの回復途上者、ホームレス、模型作家、トランスジェンダー、アスペルガー症候群当事者などの「生きている本」が揃いました。ぜひこの機会に、「生きている本」の語り手に耳を傾けてみてください。

ATACカンファレンスでは、従来から、当事者の声を聞き、障害を考えることを目的としたセミナーを実施してきました。当事者と直接対話することを通し、「自分たちの固定観念に気づきかけとし、多様性を理解しよう」と、2009年からリビングライブラリーをプログラムに組み込みました。

リビングライブラリーは予約制であるため、ご利用にあたって、リビングライブラリー受付(Room102前)で登録・貸出予約の手続きが必要です。「生きている本」は、一人で借りていただいても、グループで借りていただいても結構です。閲覧方法の詳細についてはリビングライブラリー受付(Room102前)にてお尋ねください。※蔵書リストについては、P.19をご覧ください。

❖ 専門家と語るセミナー (12/11(土)、12/12(日) Room:101)

専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切って疑問に感じている事、分からない事をぶつけてみて下さい。

こちらは、定員制のセミナーになります。席が埋まり次第、締めきりますので、当日早めにセミナールームにお越し下さい(荷物を置いての席の確保はご遠慮ください)。少人数の良さを保つため、椅子の追加はいたしません。また、立ち見もご遠慮頂きます。ご理解頂ければ幸いです。

❖ 15年ぶりのCoup de Tech(クーデテック) 2010を同時開催

Coup de TechはATACカンファレンスのスタート点ともなったイベントで、パソコンを中心とした支援技術で盛り上がりを見せた1995年に初めて開催されたものです。それはテクノロジーでクーデターを起こそうという意気込みでつけられたタイトルです。ATACカンファレンスは福祉や教育関係者が参加と展示の中心ですが、その力だけでこの閉塞した社会に風穴を開けられる時代ではなくなっています。より幅広い領域の人々の知識と技術を結集することで未来が見えてくるはず。Coup de Techでは、新しい科学技術や思想の動向を福祉とは関係ない研究者らがホットに語ります。

❖ レセプション(懇親会)

12月11日(土)カンファレンス終了後(17:00-19:00)に会場内でレセプション(懇親会)を開催します。参加ご希望の方は、事前にお申し込みください。参加費は5,000円です。当日も若干数は受付をいたしますが、定員になり次第締め切らせていただきますので、ご了承ください。

❖ 託児・支援サービスについて

託児サービスのご利用は、事前にお申し込みいただいた方のみとさせていただきます。当日のお申し込みは出来ませんのでご了承ください。

●10:00～16:45 一日通しのセミナーとなります

※プリカンファレンスは事前登録制となっております。ご登録いただいたコース以外のお受講は出来ませんので、ご了承下さい。

Room	演題・内容	講師
Room:F	★コース1 読み書き障害を理解し支援する 読み書きが出来ないと言われる子ども達も全く読めない書けないという訳ではありません。教えればそれなりに上達するため、頑張れば出来るようになるという期待を生みます。しかし、その上達の間にも学習は大きく遅れ、勉強嫌いになる子どももいます。読み書きが困難な状態にはどのようなタイプがあり、それぞれどのような支援が有効なのかをケースを紹介しながら、また支援ツールを体験してもらいながら学んでいきます。教師だけでなく読み書きに遅れのある子どもの親にとっても役立つ内容です。	河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校 教諭・言語聴覚士) 読み書き障害研究の臨床相談に日々応じながら診断検査を開発中 平林 ルミ(東京大学先端科学技術研究センターリサーチアシスタント・言語聴覚士) デジタルペンを使い読み書き障害の子どもの行動を分析するエキスパート
Room:104	★コース2 携帯電話やPCなど身近にあるテクノロジー(アルテック)を使った生活・就労の支援 携帯電話、パソコン、デジカメ、ICレコーダなど身の回りには様々な製品が使い方によって様々な障害のある人に役立つことに多くの人は気付いていません。ここではそういった製品を実際に事例とともに紹介しながら、明日から福祉現場ですぐに使える技術について学びます。福祉関係者や特別支援学校の就労担当者、また障害のある人の家族にとっても有用な情報が得られるはず。	渡辺 崇史(日本福祉大学 准教授) 元エンジニア。肢体不自由の人のシーティングや道具利用について豊富な相談実績を有する 奥山 俊博(東京大学 特任研究員) 車椅子ユーザーとして20年近く福祉機器をウォッチし続ける 岡 耕平(東京大学 特任助教) 携帯情報端末をこよなく愛し、教育や福祉への活用を日々考える
Room:J	★コース3 ICTやAAC技法を使った個別の指導計画の立て方 学校の授業の中で、パソコンなどのICTやAAC技法の活用は多くの場合、授業の中でも特別なものとして扱われています。しかし、本来はそれを使う事を目的とするのではなく、ICTやAAC技法を使いこなして障害を補い授業に参加する必要があります。ここでは知的障害・自閉症・肢体不自由の子どもたちの個別の指導計画にそれらのツールを組み込み、どのように教育効果を高めるかを分かりやすく、楽しく、実践的に学んでもらいます。特別支援に携わる先生方にお勧めです。	坂井 聡(香川大学 准教授) 特別支援学校での長い教職経験を生かし実践的な研究を行う 金森 克浩(国立特別支援教育総合研究所 教育研修情報部総括研究員) ICTを活用した肢体不自由や重度重複障害の子どもの教育・研究の第一人者
Room:I	★コース4 重度知的障害や自閉傾向のある子どもとのコミュニケーション 重い知的障害や自閉傾向の強い子どもとのコミュニケーションに困っている人も多いのではないかと思います。あまりの意思疎通の難しさにパニックが起きたり、意欲が低下したりと様々な行動上の課題が生まれるケースもあります。ここでは豊富な臨床経験を有する講師が、子どもの行動を観察し、支援を考えるポイントを語ります。福祉関係者や特別支援学校の先生、また障害のある子どもの家族にとっても有用な情報が得られるはず。	岩根 章夫(にしむら小児科・言語聴覚士) クールでマニャクな子どもの見方に定評のある臨床家
Room:G	★コース5 4人の語り 様々な障害のある人の声から理解する障害とコミュニケーション方法 障害のある人やユニークな生き方をした人に登壇していただき、実際の会話を体験してもらいながら、より良い会話の進め方について気づいていただければと思います。ここでは障害のある方々とのコミュニケーション体験を中心にセミナーを進めますが、職場や家庭で日々のコミュニケーションに難しさを感じるすべての方々に役立つと思います。	中邑 賢龍(東京大学 教授) 日々おしゃべりをしながら学び考える空気を読まない実践家
Room:103	★コース6 未来の授業を体験する -デジタル教科書からデジタル黒板まで- 電子書籍が徐々に普及し始めたというニュースをよく耳にするようになりました。教科書も電子化に向けた検討が始まっています。同時に、タブレット型情報端末も普及しはじめ、パソコンに比べて教室内にIT機器を持ち込むハードルは下がってきています。未来の学校はどうなっていくのでしょうか?ここでは実際の機器のデモを交えながら未来の授業を体験し、理解してもらいます。教育関係者にお勧めです。	巖淵 守(東京大学 准教授) 超電導研究から福祉へ転向した異色の研究者。今の関心は途上国の障害者支援 高橋 麻衣子(東京大学 特任研究員) 現場で教えることが大好きな研究者・昨年までは未来の電子黒板研究に従事
Room:H	★コース7 身体機能から学ぶ 肢体不自由児や発達障害児のコミュニケーションや手の機能の発達を身体機能の視点から学びます。身体に対する外部からの働きかけがコミュニケーション能力に及ぼす影響、手の機能が発達する背景などを詳細に示していこうと思います。	松本 琢磨(神奈川県川崎市立三軒が原病院 専門作業療法士(福祉用具)) 鴨下 賢一(静岡県立こども病院 専門作業療法士(福祉用具))

受付 9:15～ アネックスホール入口

■:ATACセミナー ●:自主企画 ★:研究・実践発表

	Coup de Tech	ATAC			
	一般公開講演	障害・コミュニケーション	マイクロソフトセミナー	ATAC基礎講座 (初めてATACに 参加される方のために)	玩具福祉学会セミナー
Room	Annex1	Annex2	C1	C2	104
9:45	9:45-10:00 ■【No.1-1-A1】 Opening 「閉塞した社会に風穴を開ける新しいパラダイム」 中邑 賢龍(東京大学)	障害を有する人だけでなく、障害のない人も生きにくさを感じる今日この頃。社会が大きく変化し、そこに適応出来ない人が少しずつ増加しています。個人の適応を助けるアプローチだけでは追いつかないと感じます。様々な社会の変化を見つめるだけでなく、生きやすい社会を提案していく必要があります。様々な分野の様々な知見に耳を傾け、これからの社会を空想し語り合う会になればと思います。			
10:00	10:00-10:50 ■【No.1-2-A1】 講演1「学問の融合から生まれる新たなバリアフリー社会へのヒント ～数理学から交通渋滞などの社会現象を解析する～」 西成 活裕(東京大学 先端科学技術研究センター)				
11:00		11:00-11:50 ■【No.1-3-A2】 【障害理解】「リアリティある支援のための障害理解ーリビングライブラリーから障害疑似体験までー」 中野 泰志(慶應義塾大学)・中邑 賢龍(東京大学)・平井 麻紀(東京大学)	11:00-11:50 ■【No.1-3-C1】 「PowerPoint教材作成のコツを学ぼう」 中園 正吾(東京学芸大学 特任講師)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	11:00-11:50 ■【No.1-3-C2】 「AT(支援技術)入門ーすべては気づきからー」 畠山 卓朗(早稲田大学)	11:00-11:50 ■【No.1-3-104】 「重度心身障害児・者と玩具の関わりとその効果」 堀田 由美(玩具福祉学会会員)
12:00	12:00-12:50 ■【No.1-4-A1】 講演2「ロボットが生み出す未来」～一緒に生活を楽しむロボットの開発～ 高橋 智隆(ロボットクリエイター)	12:00-13:00 ★ポスター発表	12:00～13:00、14:10～15:00、15:50～17:00 掲示は、上記の期間中行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。責任発表時間については、それぞれのブースにてご確認ください。同会場でセミナーも行われております。セミナー時間中の閲覧はご遠慮ください。		
13:00		13:00-14:10 ■【No.1-5-A2】 公開ケースカンファレンス1「読み書き障害の子どもの支援をみんなで考える」 河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校)	13:00-13:50 ■【No.1-5-C1】 「Office 2010の新機能と、1台のPCで複数のマウスを使う教材作り」 中園 正吾(東京学芸大学 特任講師)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	13:00-13:50 ■【No.1-5-C2】 「AAC(拡大・代替コミュニケーション)入門」 中邑 賢龍(東京大学)	13:00-13:50 ■【No.1-5-104】 「最新おもちゃ情報」 (玩具メーカー開発者)
14:00	14:00-14:50 ■【No.1-6-A1】 講演3「最先端の遺伝子研究は障害をどのように変えるのか?」～エピゲノムを知ってますか?～ 久保田 健夫(山梨大学 大学院医学工学総合研究部)	14:10-15:00 ★ポスター発表			
15:00		15:00-15:50 ■【No.1-7-A2】 【障害理解】「障害のある人5人の生活を比較して分かる多様な支援スタイル」 中邑 賢龍(東京大学)	15:00-15:50 ■【No.1-7-C1】 「Windows 7の障害のある方に役立つ機能」 中園 正吾(東京学芸大学 特任講師)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	15:00-15:50 ■【No.1-7-C2】 「環境調整入門 環境を構造化して生活を変える技法」 坂井 聡(香川大学)・菊田 知則(愛媛大学)	15:00-15:50 ■【No.1-7-104】 「障害児・者と高齢者と玩具の関わり、その効果」 小林 るつ子(玩具福祉学会理事長)
16:00	16:00-16:50 ■【No.1-8-A1】 講演4「障害に対する新しい視点に気づく ～車椅子で診療する医師から見た障害～」 熊谷 晋一郎(東京大学先端科学技術研究センター)	★ポスター発表	16:00-16:50 ■【No.1-8-C1】 「DAISYを知り、WordでDAISYを作ろう」 濱田 麻邑(NPO法人 支援技術開発機構)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)		
17:00	レセプション	軽食と飲み物を用意したレセプションを開催します。定員がありますので事前に申し込みが必要です。参加費は別途5,000円となります。			

ATAC				
支援技術	自主セミナー	研究・実践発表	障害理解プログラム	専門家と語る
F	G	H	502-507	101
			リビングライブラリーは予約制であるため、ご利用にあたって、リビングライブラリー受付(Room102前)で登録・貸出予約の手続きが必要です。「生きている本」は、一人で借りていただいても、グループで借りていただいても結構です。閲覧方法の詳細についてはリビングライブラリー受付Room 102前にてお尋ねください。 ※蔵書リストについては、P.19をご覧ください。	専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切って疑問に感じている事、分からない事をぶつけてみて下さい。
11:00-11:50 ★【No.1-3-F】 「問伐材とアルミジョイントを使ったテクノイドの開発ー座位保持装置から遊具まで簡単に製作する技術ー」 繁成 剛(東洋大学 ライフデザイン学部)	11:00-11:50 ■【No.1-3-G】 「AACの取り組み以前に大切なことを忘れていませんか? ～AACを見直そう!～」 小西 順(大阪府立堺支援学校)	11:00-11:50 ★【No.1-3-H】 「精神障害とICT活用」 ・統合失調症を持つ者のパソコン操作困難と精神症状の関連について ～パソコン学習へのアプローチ～ 森本 かえで(せのお医院 作業療法士) ・精神・発達障害とSNS(ソーシャルネットワークサービス) 岡 耕平(東京大学)		11:00-11:50 ■【No.1-3-101】 「知的障害を伴う自閉症スペクトラムの子ども・人との会話の入り口～「質問に応える」を具体的に練習してみよう～」 【定員20名】 岩根 章夫(こしむら小児科)
			12:00-12:30 ■【No.LL11-1】 リビングライブラリー 【定員制】	
13:00-13:50 ●【No.1-5-F】 「携帯電話やPCを上手に利用するために ～ほんのちょっとした注意から」 寺田 慶治(ドリームナビゲーター横浜/SPREADセキュリティ対策推進協議会)	13:00-13:50 ●【No.1-5-G】 「コミュニケーションエイドを活用した重度肢体不自由児および知的障がい児の学習支援」 生田 茂(大妻女子大学 社会情報学部)	13:00-14:00 ★【No.1-5-H】 「知的障害のある子どもとのコミュニケーション」汎用コミュニケーションエイドVCAN/1Aを用いた知的障害児のコミュニケーション支援 ～他職種との連携と言語聴覚士の役割～ 入山 満恵子(明倫短期大学 専攻科) ～家庭、学校そして地域へと活動の場をを広げた自閉症児Aさん～ 桜井 真郷(新潟大学教育学部附属特別支援学校) ～VCAN/1Aのカスタマイズ支援システム～ 伊藤 涼(新潟大学大学院 自然科学研究科)	13:00-13:30 ■【No.LL11-2】 リビングライブラリー 【定員制】	13:00-13:50 ■【No.1-5-101】 「見ることから考える支援」 【定員20名】 中野 泰志(慶應義塾大学)
			14:00-14:30 ■【No.LL11-3】 リビングライブラリー 【定員制】	
15:00-15:50 ●【No.1-7-F】 「障害のある人のIT支援を考える」 ・音座標を利用した自己書字訓練支援システムの開発 伊藤 史人(一橋大学) ・DO-IT Japan ～障害や病気をかかえる学生のための大学・社会体験プログラム～ 平井 麻紀(東京大学)	15:00-15:50 ●【No.1-7-G】 「姿勢保持技術「生活を豊かにする」キャスパアプローチ(旧バランスシーティング)」 上川 享宏(NPO生活を豊かにする障害児・者支援福祉協会)	15:00-15:50 ★【No.1-7-H】 「遠隔コミュニケーション技術と障害支援」 ・動画をを用いた遠隔講義支援システムの開発および実践 小川 修史(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) ・知的障害のある生徒に対する国際交流の実践 ～バリアフリー教育ネットワークの活動を通してー 馬淵 哲哉(大阪府立佐野支援学校)	15:00-15:30 ■【No.LL11-4】 リビングライブラリー 【定員制】	15:00-15:50 ■【No.1-7-101】 「人と技術の交差点」 【定員20名】 畠山 卓朗(早稲田大学)

受付 9:00～ アネックスホール入口

■:ATACセミナー ●:自主企画 ★:研究・実践発表

	Coup de Tech	ATAC			
	一般公開講演	障害・コミュニケーション	マイクロソフトセミナー	ATAC基礎講座 (初めてATACに 参加される方のために)	玩具福祉学会セミナー
Room	Annex1	Annex2	C1	C2	104
9:10		9:10-10:00 ■【No.2-1-A2】 「身近にあるテクノロジー (アルテック)を活用した特別 支援教育・就労」 岡 耕平(東京大学) 「携帯電話の支援機能と 活用」 青木 修一(NTTドコモ)	9:10-10:00 ■【No.2-1-C1】 【対談】「1990年に支援 技術を使い始めた人の今 ～20年で人はどう変わった か?～」 三谷 泰男・中邑 賢龍(東京大学)	9:10-10:00 ■【No.2-1-C2】 「作業療法士のIT活用支援 テクニク」 高橋 知義(こぐま福祉会こぐま 学園 作業療法士) ※11:10-12:00のセミナーと 同内容となります。	9:10-12:00 ■【No.2-1-104】 最新のおもちゃを展示してい ます、是非お立ち寄りくださ い。
10:10	10:10-11:00 ■【No.2-2-A1】 講演5 「電子書籍の登場が変える 読書体験」 新名 新(角川書店 常務取締役)	10:00-11:50 ★ポスター発表	10:00～11:10、12:00～13:00 掲示は、上記の期間中行われておりま すが、責任発表時間には、発表者がブ ースにてご説明いたします。責任発表 時間については、それぞれのブースに てご確認ください。同会場でもセミナー も行われております。セミナー時間中 の閲覧はご遠慮ください。		10:00-11:00 ■【No.2-2-104】 おもちゃの専門家が、障害の ある子どもの相談に応じま す。 玩具福祉学会会員
11:10		11:10-12:00 ●【No.2-3-A2】 自主セミナー 「シンボルを使った教育の頂点 見せませす 一信州特別支援 教育情報誌「slide」冬の特 大号! Vol.2-」 本田 佑介(長野県伊那養護学 校)	11:10-12:00 ■【No.2-3-C1】 「ATとAACはどこに行くの か? パネルディスカッション」 畠山 卓朗(早稲田大学)・ 渡辺 崇史(日本福祉大学)・ 巖淵 守(東京大学)・ 中邑 賢龍(東京大学)	11:10-12:00 ■【No.2-3-C2】 「作業療法士のIT活用支援 テクニク」 高橋 知義(こぐま福祉会こぐま 学園 作業療法士) ※9:10-10:00のセミナーと 同内容となります。	
12:10	12:10-13:00 ■【No.2-4-A1】 講演6 「『クラウド時代の先にある もの』～変貌するパソコン・ 携帯電話～」 小関 貴志(株式会社 セールス フォース・ドットコム)	12:00-13:00 ★ポスター発表	12:00-12:50 ■【No.2-4-C1】 e-ATランチョンセッション 「VOCA[リンゴ]の事例報告 と現在のAAC事業のご紹介」 (株)パシフィックサプライ	本セッションは、お弁当付き(無料)のセッションとなっています。お 食事をとりながら、セッションをご聴講いただけます。お弁当に関して は、12日の朝、受付にて整理券を配布いたします。多数の場合は、 抽選とさせていただきますので、予めご了承ください。	
13:10		13:10-14:20 ■【No.2-5-A2】 公開ケースカンファレンス2 「自閉症の子どもの支援を みんなで考える」 坂井 聡(香川大学)	13:10-14:00 ■【No.2-5-C1】 e-ATセッション 「様々な支援技術を体験し ませんか?」(機器展示あり) 13:10-13:30 視線入力装置マイトビー トビー・テクノロジー・ジャパン (株)	優れた一般製品の福祉転 用が進む中、障害者や高齢 者に向けた支援機器も新し いアイデアや技術が投入さ れ、新しい風が吹き始めて います。本セッションでは、支 援機器の今後の方向性が 垣間見えるテーマを集めて 皆様にご紹介したいと考 えております。 12時から3時までC1のセ ミナールームでは、セッション と並行して支援機器の展示を 行い、フリードリンクを実施 いたしております。セッション を聞くもよし、支援機器の操 作体験をするもよし、歓談す るもよし、休憩するもよし、是 非、お気軽にe-ATセッション にご参加ください。 また、e-ATセミナーを行う企 業による支援機器展示を行 います。 パシフィックサプライ/トビー テクノロジージャパン/テク ノスジャパン/富士通/ トーキングエイド開発プロ ジェクト	
14:10	14:10-15:00 ■【No.2-6-A1】 講演7 「空気の靴 ～芸術・デザイン・ コミュニケーション～」 神原 秀夫(BARAKAN DESIGN)・ 鈴木 康広(アーティスト)・ 秋田 麻早子(東京大学)・ 中邑 賢龍(東京大学)		14:10-15:00 ■【No.2-6-C1】 e-ATセッション 「様々な支援技術を体験し ませんか?」(機器展示あり) 14:10-14:30 コードレス筋電スイッチと スイッチ切換機の活用 (株)テクノスジャパン	14:10-15:00 ■【No.2-6-104】 e-ATセッション 「様々な支援技術を体験し ませんか?」(機器展示あり)	エーブルネット社会話補助 装置「スーパーカー」を用 いた就労事例と就労支援の 取り組み紹介 松井由起子(パシフィックサプ ライ株式会社)
15:10	15:10-15:30 ■【No.2-7-A1】 Closing 「がんばる社会から配慮ある 社会へ 一支援技術とAAC の20年の歩みを振り返り、 未来を語る」 中邑 賢龍(東京大学)	この20年、みんながんばり続けて社会全体が少し疲れたような気が します。自分ではどうにもならない動きに巻き込まれて、どこに行っ てしまふか分からない不安につつまれています。そんな時、だからこそ 頑張ろうと考えると、ますます疲れ果て、不安になってしまいます。 今こそ少し休んで、様々な新しい考えを吸収できれば…ゆっくりと 物事の本質を見つめることができれば…何か今までと少し違う発想 で、少しだけ前に進んで行けるはずです。			

	ATAC				
	支援技術	自主セミナー	研究・実践発表	障害理解 プログラム	専門家と語る
	F	G	H	502-507	101
9:10-10:00 ■【No.2-1-F】 「世界の先端支援技術の動向」 巖淵 守(東京大学)	9:10-10:00 ●【No.2-1-G】 「スイッチを使った肢体不 自由教育の頂点見せませす 一信州特別支援教育情報 誌「slide」冬の特号! Vol.1-」 矢島 悟(長野県飯田養護学校)	9:10-10:00 ★【No.2-1-H】 「発達障害の支援ツール」 ・セルフサポートシート作成支援ソフトウェアの 開発 ～「自分の特性を自分で伝える」の実現～ 小川 修史(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) ・自閉症の生徒への視覚的教材教具 一学校生活で自立した生活行動をするための 板磁石やカードを使った実践一 関根 優子(武庫川女子大学大学院)			9:10-10:00 ■【No.2-1-101】 「ATACとの出会いと 意識の変化」 【定員20名】 坂井 聡(香川大学)
				10:10-10:40 ■【No.LL12-1】 リビングライブラリー 【定員制】	
11:10-12:00 ■【No.2-3-F】 「なぜ、我が家は…ゆかいな家族 なのか? ～自閉症ノブの育ててから 見た20年の教育・福祉・社会の 変化～」 丸岡 玲子(特定非営利活動法人ふあみ りい NOTE理事長)	11:10-12:00 ●【No.2-3-G】 「自分で作るデジタル教材 一読みたい物を、読みたい 時に、読みたい場所!個 々の子どもに応じた世界 に一つの電子書籍を作っ てみよう」 高松 崇(memis)	11:10-12:00 ★【No.2-3-H】 「肢体不自由児とのコミュニケーション」 ・コミュニケーションブックの実践報告 ～伝わる 楽しさ、伝える喜びを感じるコミュニケーション～ 田中 優子(鳥取県立皆生養護学校) ・重度の肢体不自由のある児童への PowerpointによるVOCAを活用したコミュニ ケーション支援 原 伸生(長野県立小諸養護学校)	11:10-11:40 ■【No.LL12-2】 リビングライブラリー 【定員制】	11:10-12:00 ■【No.2-3-101】 「読み書き障害のある 子ども達にどのような支 援をすればいいのか?」 【定員20名】 河野 俊寛(石川県立明和 特別支援学校)	
				12:10-12:40 ■【No.LL12-3】 リビングライブラリー 【定員制】	
13:10-14:00 ★【No.2-5-F】 「IT支援と制度」 ・障がい児・者への工学的支援活動 の紹介 細手 雅彦(鳥根大学 総合理工学部) ・重度障害者に対するIT支援 当院障害者施設等一般病棟での取 り組み 鈴木 充絵(会田記念リハビリテーション病院 作業療法士)	13:10-14:00 ●【No.2-5-G】 「重度重複障害の子どもの 能力を引き出すおもちゃ遊 びの実践 ーマジカルトイ ボックスの実践からー」 金森 克浩(国立特別支援教育 総合研究所)	13:10-14:00 ★【No.2-5-H】 「障害への合理的配慮」 ・未来のウェブアクセシビリティは何を実現する のか? 川路 いず美(NPO法人 みんなのICT) ・私立大学等経常費補助金(特別補助)から 見た高等教育機関での障害学生への合理的 配慮の現状 田中 芳則(前名城大学大学院大学・学校づくり研究科)	13:10-13:40 ■【No.LL12-4】 リビングライブラリー 【定員制】	13:10-14:00 ■【No.2-5-101】 「iPhone・iPadアプ リ作成入門」 【定員20名】 巖淵 守(東京大学)	
14:10-15:00 ■【No.2-6-F】 「福祉制度の変革と現状」 渡辺 崇史(日本福祉大学)	14:10-15:00 ■【No.2-6-G】 学習教材を考える 「視覚障害(弱視)や学習 障害(ディスレクシア)のある 小学生の学習に役立つ 漢字教材開発をめざして」 田中 芳則(なごや福祉用具プラザ)	14:10-15:00 ■【No.2-6-H】 研究発表 「異分野との融合から生まれる科学 障害を数学で説明する」 三木 大史(ノートルダム女学院)・ 河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校)	14:10-14:40 ■【No.LL12-5】 リビングライブラリー 【定員制】		

リビングライブラリーは予約制である
ため、ご利用にあたって、リビングラ
イブラリー受付(Room102前)で登
録・貸出予約の手続きが必要で
す。「生きている本」は、一人で借り
ていただいても、グループで借りて
いただいても結構です。閲覧方法
の詳細についてはリビングライブラ
リー受付Room 102前)にてお尋
ねください。
※蔵書リストについては、P.19をご
覧ください。

専門家と語るセッションは
定員20人という少ない人
数で講師とやりとりしなが
ら知識を深めていきます。
思い切って疑問に感じて
いる事、分からない事をぶ
つけてみて下さい。

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
9:45-10:00	Annex1	■【No.1-1-A1】 一般公開講演 Opening 「閉塞した社会に風穴を開ける新しいパラダイム」 中邑 賢龍(東京大学)	障害を有する人だけでなく、障害のない人も生きにくさを感じる今日この頃。社会が大きく変化し、そこに適応出来ない人が少しずつ増加しています。個人の適応を助けるアプローチだけでは追いつかないと感じます。様々な社会の変化を見つめるだけでなく、生きやすい社会を提案していく必要があります。様々な分野の様々な知見に耳を傾け、これからの社会を空想し語り合う会になればと思います。
10:00-10:50	Annex1	■【No.1-2-A1】 一般公開講演 講演1 「学問の融合から生まれる新たなバリアフリー社会へのヒント ～数理学から交通渋滞などの社会現象を解析する～」 西成 活裕(東京大学 先端科学技術研究センター)	社会には様々な流れがあり、そして流れには渋滞という問題が普遍的につきまとう。例えば車の渋滞、人の混雑、製造現場での在庫の無駄、そして生体タンパク質の不調による病気など、すべては流れにおける渋滞という数理科学的な枠組みで捉えることができる。こうした分野横断的な体系をまとめた渋滞学や無駄学を紹介し、モビリティという観点から高齢者や障害者に対する望ましい社会の姿について考察する。
11:00-11:50	Annex2	■【No.1-3-A2】 障害・コミュニケーション【障害理解】 「リアリティある支援のための障害理解ーリビングライブラリーから障害疑似体験までー」 中野 泰志(慶應義塾大学)・中邑 賢龍(東京大学)・平井 麻紀(東京大学)	障害を理解するとはどういうことでしょうか?障害疑似体験、リビングライブラリーなど、障害理解の方法の効果と限界について考えてみます。
	C1	■【No.1-3-C1】 マイクロソフトセミナー 「PowerPoint教材作成のコツを学ぼう」 中園 正吾(東京学芸大学 特任講師)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	マイクロソフトのWebサイトで無償公開されているように(http://www.microsoft.com/japan/enable/ppt/)、特別支援教育の教材としてPowerPointが使われるケースが増えています。この講座では、PowerPointの初心者の方を対象に、教材の効果、作成する際のポイントについて講義します。
	C2	■【No.1-3-C2】 ATAC基礎講座(初めてのATACに参加される方のために) 「AT(支援技術)入門-すべては気づきから-」 畠山 卓朗(早稲田大学)	近年では様々なコミュニケーション支援機器が市販化されるようになった。しかし、機器をどう使いこなすかといったことだけではなく、障がいがある人との間のコミュニケーションそのものに対する考えやそれに向かう人の姿勢においては様々な問題が見え隠れしている。生活現場で出会ったいくつかの事例を紹介することを通して、重い障がいがある人とのコミュニケーションで私達が着目すべき点について考える。
	104	■【No.1-3-104】 玩具福祉学会セミナー 「重度心身障害児・者と玩具の関わりとその効果」 堀田 由美(玩具福祉学会会員)	重い障害を持っていても玩具で遊ぶことができるのでしょうか?どんな玩具がいいのでしょうか?動けないから、話せないから遊べない...そう思っていないませんか。動かさなくても、話せなくても、おもちゃで楽しく遊ぶことができます。その楽しみは、明日への元気の源です。毎日がきつと楽しく元気が過ごせますよ。トイマジック!おもちゃが発する不思議なパワーをあなたも体感してください。
	F	★【No.1-3-F】 支援技術 「間伐材とアルミジョイントを使ったテクノエイドの開発 一座位保持装置から遊具まで簡単に製作する技術ー」 繁成 剛(東洋大学 ライフデザイン学部)	障害児・者を対象としたテクノエイドは木や金属等で製作され、対象者の状態の変化に対応できるように種々の調整機構や部品を備えているが、個別に適合させるため不要になった製品の多くは廃棄処分となる。この状況を改善するため、間伐材を利用したフレームとアルミジョイントを組み合わせるにより再利用可能なジョイントシステム(JOSY)を開発し、姿勢保持具や遊具を試作した。そのデザインと使用評価について報告する。
G	●【No.1-3-G】 自主セミナー 「AACの取り組み以前に大切なことを忘れていませんか? ～AACを見直そう!～」 小西 順(大阪府立堺支援学校)	AAC導入前に大切なのは、コミュニケーションに対する意欲を先ず高めておくことです。私は、その手法として10年来「e-ATと自作ソフトをユニット」として捉え、活用し成果をあげてきました。そこで、このユニットを他の支援者が活用するに際し、補助するシステムとして「個別課題アプローチ表(DVD:配布予定)」を開発しました。当日はこのアプローチ表を用い皆さんと一緒に実演し、その効果を体感してもらう予定です。	
H	★【No.1-3-H】 研究・実践発表 「精神障害とICT活用」 ・統合失調症を持つ者のパソコン操作困難と精神症状の関連について ～パソコン学習へのアプローチ～ 森本 かえで(せのお医院 作業療法士) ・精神・発達障害とSNS(ソーシャルネットワークサービス) 岡 耕平(東京大学)	「統合失調症を持つ者のパソコン操作困難と精神症状の関連について ～パソコン学習へのアプローチ～」 現在はパソコンが普及しており就職にも役立つため、統合失調症患者の中にもパソコン操作習得を目指す者は多い。しかし彼らは操作学習に困難を示す。そこで、障害があっても健康な部分にアプローチすることで学習効果を引き出せる統合失調症者向けパソコン学習プログラムを作るため、統合失調症に特徴的な困難があるのか、また困難を生む原因は何なのかを分析した。今回は以上の研究に加え、開発中のプログラムも合わせて発表する。	
101	■【No.1-3-101】 専門家と語る 「知的障害を伴う自閉症スペクトラムの子ども・人との会話の入り口 ～「質問に答える」を具体的に練習してみよう～」【定員20名】 岩根 章夫(にしむら小児科)	「精神・発達障害とSNS(ソーシャルネットワークサービス)」 対面でのコミュニケーションに困難がある精神・発達障害のある人にとって、非対面でコミュニケーションできるインターネットは、支援技術として有効である。一方で、ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)のように、やり取りが発生する場面において、トラブルに発展する事例も少なくない。本研究では、事例の分析から、上記トラブルの発生プロセスを整理するとともに、状況に応じた支援の可能性について検討する。	
101	■【No.1-3-101】 専門家と語る 「知的障害を伴う自閉症スペクトラムの子ども・人との会話の入り口 ～「質問に答える」を具体的に練習してみよう～」【定員20名】 岩根 章夫(にしむら小児科)	専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切って疑問に感じている事、分からない事をぶつけてみて下さい。 知的障害を伴う自閉症スペクトラムの方は、「ことばの理解」や「要求などでの機能的な使用」が増えても、なかなか質問に答えることが困難なことが珍しくありません。このセッションでは、質問に答えることを1)どの様に評価し、2)どんな練習から始め、3)生活の中でどう具体的に工夫するか、についていくつかの視点を提供していきたいと思います。	

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
12:00-12:50	Annex1	■【No.1-4-A1】 一般公開講演 講演2 「ロボットが生み出す未来」 ～一緒に生活を楽しむロボットの開発～ 高橋 智隆(ロボットクリエイター)	近い将来、人とコミュニケーションするヒューマノイドロボットが、身の回りの家電製品を操作し、部屋全体がロボットとして動くようになります。その時、ロボットにはどのような機能やデザインが必要なのでしょう。そしてそんなロボットが一家に一台活躍する時代は、どのような過程を経ていつ頃実現するのかを論じてみたいと思います。
12:00-17:00	Annex2	★ポスター発表	12:00～13:00、14:10～15:00、15:50～17:00 掲示は、上記の期間中に行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。責任発表時間については、それぞれのブースにてご確認ください。 同会場でセミナーも行われております。セミナー時間中の閲覧はご遠慮ください。
12:00-15:30	502-507	■【No.1-0-5F】 障害理解プログラム リビングライブラリー 【定員制】	リビングライブラリーは予約制であるため、ご利用にあたって、リビングライブラリー受付(Room 102 前)で登録・貸出予約の手続きが必要です。「生きている本」は、一人で借りていただいても、グループで借りていただいても結構です。蔵書のリストや閲覧方法の詳細についてはリビングライブラリー受付(Room 102 前)にてお尋ねください。
13:00-14:10	Annex2	■【No.1-5-A2】 障害・コミュニケーション 公開ケースカンファレンス1 「読み書き障害の子どもの支援をみんなで考える」 河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校)	読み書きに困難がある子どもについて、ケース検討を公開の場で行います。検討したいケースがある方は、当日その場で手を上げて下さい。インシデント・プロセス法という方法を使って検討を進めますので、ケースを提供してくださる方の事前の準備はいりません。検討したいケースの困っていることだけを短く皆さんの前で話し、その後は、参加者からの質問に答えるだけです。参加者からの質問がないと進まない検討会なので、参加者には積極的な参加をお願いします。
13:00-13:50	C1	■【No.1-5-C1】 マイクロソフトセミナー 「Office 2010の新機能と、1台のPCで複数のマウスを使う教材作り」 中園 正吾(東京学芸大学 特任講師)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	2010年6月に発売された「Office 2010」のうち、画像編集機能など、教材作成や校務に役立つ新機能を中心に紹介します。また、1台のPCで複数のマウスで回答したりする教材(スライド)を作成できる、PowerPointのアドオンソフト「Mouse Mischief」についても、実際の教材を見ていただきながら、紹介します。
	C2	■【No.1-5-C2】 ATAC基礎講座(初めてのATACに参加される方のために) 「AAC(拡大・代替コミュニケーション)入門」 中邑 賢龍(東京大学)	AACとは何か?初めての参加者に分かりやすいようにその思想と基本的な技法をお話しします。
104	■【No.1-5-104】 玩具福祉学会セミナー 「最新おもちゃ情報」 (玩具メーカー開発者)	社団法人日本玩具協会主催で、毎年東京ビックサイトで東京おもちゃショーを開催しています。毎年新製品がたくさん展示されます。福祉機器ショーと違い楽しさが溢れています。玩具メーカーの人にも来て頂き玩具の開発の方法や遊び方なども企業として話してもらい、ご参加の皆様には、楽しく遊んでいただきます。「えー???たのおもちゃでしよう?」と言わず楽しいおもちゃの世界をのぞいて下さい。みんなおもちゃ好きに成るはず。目の不自由な子ども耳が不自由な子どものために「小さな凸のおもちゃカタログ」に参加の方々に差し上げます。	
F	●【No.1-5-F】 支援技術 「携帯電話やPCを上手に利用するために～ほんのちょっとした注意から～」 寺田 慶治(ドリームナビゲーター横浜/SPREAD セキュリティ対策推進協議会)	携帯電話やPCは、障害を持つ人たちのコミュニケーションを助けたり、社会参加やQOLにたいへん役立つ便利なものです。しかし、それらを利用することでウィルス・架空請求・フィッシング詐欺・有害情報などの危険にも遭遇しやすくなります。このセミナーは、どなたでもできる簡単なセキュリティの知識を身に付けていただくとともに、万が一、困った事態に遭遇した時にどのようにすればいいのかの対処法を学びます。	
G	●【No.1-5-G】 自主セミナー 「コミュニケーションエイドを活用した重度肢体不自由児および知的障がい児の学習支援」 生田 茂(大妻女子大学 社会情報学部)	本自主企画では、音声や音をドットコードの形で普通紙に刷り込み、ハンディーなツールでなぞって再生する「音声発音(再生)システム」を用いて取り組んできた学習支援活動の到達点を明らかにし、成果と課題を共有するとともに、ドットコードに触るだけで音声や音を再生できる新型の「音声ペン」を用いた新しい取り組みの現状を報告し、参加者とともに、今後の可能性について議論を深めたい。	
101	■【No.1-5-101】 専門家と語る 「見ることから考える支援」【定員20名】 中野 泰志(慶應義塾大学)	専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切って疑問に感じている事、分からない事をぶつけてみて下さい。 周囲の人やモノに興味をもってくれないとか、手を出してくれないと悩んでいませんか?絵カード等の教材を提示する際、見やすさを考えていますか? お話をする際に、顔の表情等のノンバーバル情報を大切にしていますか? コミュニケーションにおいて見ることとはとても大切な役割を果たしています。ここでは、見ることの本質を体験的に理解するワークショップを展開します。見ることという新しい視点から日頃のかかわりを再考してみませんか?	

■:ATACセミナー ●:自主企画 ★:研究・実践発表

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
13:00-14:00	H	★【No.1-5-H】 研究・実践発表 「知的障害のある子どもとのコミュニケーション」汎用コミュニケーションエイドVCAN/1Aを用いた知的障害児のコミュニケーション支援 ～他職種との連携と言語聴覚士の役割～ 入山 満恵子(明倫短期大学 専攻科) ～家庭、学校そして地域へと活動の場を広げた自閉症児Aさん～ 桜井 真郷(新潟大学教育学部附属特別支援学校) ～VCAN/1Aのカスタマイズ支援システム～ 伊藤 涼(新潟大学大学院 自然科学研究科)	「～他職種との連携と言語聴覚士の役割～」 現在、我々は教諭やOT、ST、技術者など他職種から成るチームを組み、障がい児者のコミュニケーションを補助する音声出力型汎用コミュニケーションエイド「VCAN/1A」の開発と実用化を目指している。発表(1)では、チームの連携の様子と、知的障がいを伴う自閉症児へのVCAN/1Aを用いた支援について、言語聴覚士の立場から事例の紹介、チームのなかで担う言語聴覚士の役割について論じる。 「～家庭、学校そして地域へと活動の場を広げた自閉症児Aさん～」 現在、我々は支援技術者、言語聴覚士、作業療法士、特別支援学校教諭からなる支援チームを組み、障がい児者のコミュニケーションを補助する音声出力型汎用コミュニケーションエイド(VOCA)の開発と実用化を目指している。発表(2)では、知的障がいを伴う自閉症児(16歳、附属特別支援学校高等部1年)がVOCAを操作して家庭、学校そして地域で呼び掛け、人とかわり活動する場面を広げてきた取り組みについて紹介する。 「～VCAN/1Aのカスタマイズ支援システム～」 言語やコミュニケーションに障がいをもつ子どもへのコミュニケーション支援は、障がいの種別、生活や教育の環境、発達段階に応じて、逐次更新する必要がある。そこで個々の能力やニーズに合わせて多様にカスタマイズできる汎用コミュニケーションエイド“VCAN/1A”を開発してきた。その普及を目的として、本研究では、教師、親などの中間ユーザが簡単に作成・更新できる“カスタマイズ支援システム”を開発した。
		■【No.1-6-A1】 一般公開講演 講演3 「『最先端の遺伝子研究は障害をどのように変えるのか?』 ～エピゲノムを知ってますか?～」 久保田 健夫(山梨大学 大学院医学工学総合研究部)	遺伝子はそのすべてが発現しているのではなく、必要なものが選ばれ不要なものは抑制されている。このような遺伝子のON/OFFをゲノム上で決めているのがDNAやヒストン蛋白質の修飾に基づくエピゲノムである。エピゲノムの先天的な異常が発達障害の発症原因となることが知られていたが、最近、後天的にも環境の影響をうけて胎生期や出生後にエピゲノム変化が生じ、種々の疾患の発症に関与していることが示唆され始めた。本講演では、発達障害の発症と環境要因に寄るエピゲノム変化の関係について、仮説も交えて概説する。
		■【No.1-7-A2】 障害・コミュニケーション【障害理解】 「障害のある人5人の生活を比較して分かる多様な支援スタイル」 中邑 賢龍(東京大学)	障害に対してステレオタイプ的な見方をしている人が多い気がします。同じ肢体不自由のある人でもその生活の仕方は様々です。ここでは同じ障害のある人に生活を語ってもらい、その違いに気づいてみます。
		C1 ■【No.1-7-C1】 マイクロソフトセミナー 「Windows 7の障害のある方に役立つ機能」 中園 正吾(東京学芸大学 特任講師)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	発売から一年たつOS「Windows 7」の障害のある方にとって便利な設定機能(アクセシビリティ機能)や、新機能をご紹介します。
15:00-15:50	Annex2	■【No.1-7-A2】 障害・コミュニケーション【障害理解】 「障害のある人5人の生活を比較して分かる多様な支援スタイル」 中邑 賢龍(東京大学)	障害に対してステレオタイプ的な見方をしている人が多い気がします。同じ肢体不自由のある人でもその生活の仕方は様々です。ここでは同じ障害のある人に生活を語ってもらい、その違いに気づいてみます。
	C1	■【No.1-7-C1】 マイクロソフトセミナー 「Windows 7の障害のある方に役立つ機能」 中園 正吾(東京学芸大学 特任講師)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	発売から一年たつOS「Windows 7」の障害のある方にとって便利な設定機能(アクセシビリティ機能)や、新機能をご紹介します。
	C2	■【No.1-7-C2】 ATAC基礎講座(初めてのATACに参加される方のため) 「環境調整入門 環境を構造化して生活を変える技法」 坂井 聡(香川大学)・菊田 知則(愛媛大学)	活動や参加の制約を障がいというように考えるようになってきています。つまり、障がいは誰もがつものと考えられるようになってきているのです。活動や参加の制約を考えると、環境の果たす役割は大きくなります。環境を構造化したり、より快適な環境を作り出したりすることができれば、活動や参加の制約は少なくなると思われるからです。ここでは、環境を構造化して、より活動、参加しやすい環境を整えるための工夫について考えたいと思います。
104	■【No.1-7-104】 玩具福祉学会セミナー 「障害児・者と高齢者と玩具の関わり、その効果」 小林 るつ子(玩具福祉学会 理事長)	21世紀は多くのテクノロジーを導入した玩具がたくさん開発されています。これらを上手に選択して活用し、楽しく遊んで、淋しさも、苦しさも忘れて夢になり遊ぶことが大切です。するとその人の笑顔が生まれてきます。1度しかない人生ですから、どんなに重い障害がある人も美しいもの、綺麗な音、また楽しい動きで、時間をすごすことが出来れば嬉しいです。玩具で魔法の技を学んで下さい。皆が幸せな笑顔で、少しの時間が共有できれば最高です。展示品をモニターとしてお受けくださる人に玩具を寄贈します。先着順です。今回は2回目のモニター募集です。数年前もATACの会場で実施しました。色々なご意見も書いてください。使い方選び方の講義をいたします。	
F	●【No.1-7-F】 支援技術 「障害のある人のIT支援を考える」 ・音座標を利用した自己書字訓練支援システムの開発 伊藤 史人(一橋大学) ・DO-IT Japan ～障害や病気をかかえる学生のための大学・社会体験プログラム～ 平井 麻紀(東京大学)	「音座標を利用した自己書字訓練支援システムの開発」 視覚障害者の書字練習には主にレーズライターが用いられてきた。しかし、バランスのよい文字／図形が描かれているかどうかは自分では判別が付きにくかった。本開発研究は、音座標ガイドを使って自己書字練習を行えるシステム提案するものである。タブレットの文字入力範囲に音座標パターンを定義し、ペン先位置を周波数で判別できるようにした。これにより、ガイドなしの場合よりもバランスのよい文字／図形を描けることを示した。 「DO-IT Japan ～障害や病気をかかえる学生のための大学・社会体験プログラム～」 「DO-IT Japan 障害や病気を抱える学生のための大学・社会体験プログラム」は、高等教育進学と将来の就労を目指す障害のある若者を支援すると共に、社会に存在するバリアを解明し、多様性に関わった社会を実現することを目的とする活動です。今回は、DO-IT Japanの参加者と一緒に、具体的な活動紹介を行います。また、障害学生の大学受験に関して、この4年間で得られた成果について紹介したいと思います。	

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
15:00-15:50	G	●【No.1-7-G】 自主セミナー 「姿勢保持技術「生活を豊かにする」キャスパアプローチ(旧バランスシーティング)」 上川 享宏(NPO生活を豊かにする障害児・者支援福祉協会)	姿勢が安定せず、コミュニケーション機器を上手く使いこなせない。「少しの時間なら身体を起こして前を見る事は出来るが、すぐに頭を突っ伏してしまう、身体が倒れてしまう。」等、姿勢の事で悩んでおられる方が多いと思います。そのような方々に、「キャスパアプローチ(旧称バランスシーティング)」と言う姿勢保持の技術について、具体的な画像や動画をおりませながら、ご紹介させていただきます。
	H	★【No.1-7-H】 研究・実践発表 「遠隔コミュニケーション技術と障害支援」 ・動画を用いた遠隔議論支援システムの開発および実践 小川 修史(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) ・知的障害のある生徒に対する国際交流の実践 ―バリアフリー教育ネットワークの活動を通して― 馬淵 哲哉(大阪府立佐野支援学校)	「動画を用いた遠隔議論支援システムの開発および実践」 近年、e-AT及びAACの概念が浸透してきた一方で、経験の浅い支援者がこれらを適切に導入する困難が存在する。これらの概念は障がい者固有の困難さを十分に把握する事で初めて効果が表れるが、知識・経験が不足した状態では把握が難しく、結果的に「ズレた支援」になる可能性がある。そこで、本発表では障がい者固有の困難さの把握を目的に開発した遠隔議論支援システムを紹介し、特別支援学校での実践結果について報告する。 「知的障害のある生徒に対する国際交流の実践 ―バリアフリー教育ネットワークの活動を通して―」 知的障害者である生徒とタイの障害児校の間で、JISコミュニケーション支援用絵記号を使い、簡単に書き込みができるホームページを作り、国際交流の実践を考えた。しかし、JISは日本の規格であり、タイの生徒には理解が難しいと考えられる。そこで、タイの生徒と日本の生徒に調査を行い理解率のデータを得た。また、実際にホームページを使った日本の知的障害のある生徒とタイの障害のある生徒の国際交流実践を報告する。
	101	■【No.1-7-101】 専門家と語る 「人と技術の交差点」【定員20名】 畠山 卓朗(早稲田大学)	専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切って疑問に感じている事、分からない事をぶつけて下さい。 如何にすばらしい技術であろうと、対象となる人の気持ちに寄り添えないかぎり、無用の長物になってしまいます。人と技術がうまく出会うにはどうしたらよいか、互いの経験を持ち寄ってお話しませんか。もし、失敗続きの人がおられたら、それを決してネガティブに捉えないで下さい。それは成功への大切なプロセスだからです。人と技術がうまく出会い、そして何かが生まれるために、このセッションを企画します。
16:00-16:50	Annex 1	■【No.1-8-A1】 一般公開講演 講演4 「障害に対する新しい視点に気づく ～車椅子で診療する医師から見た障害～」 熊谷 晋一郎(東京大学先端科学技術研究センター)	健全な身体イメージに近づけることを目指すリハビリには限界があり、周囲のモノや人との手探りの交渉の中から事後的に立ち上がってくる動きのイメージに身をゆだねていく構えが重要だ。そして、常に不確実性に関わったそんな交渉の中にこそ、不安や痛みとともに、自由が宿る。そのことを踏まえたとき、従来の自立という概念や、自己決定の倫理が必ずしも自由をもたらすものではなく、不確実性によって引き起こされる「自由」や「痛み」こそが、当事者と支援者の連帯の方向性を指し示すものとして浮かび上がる。
	C1	■【No.1-8-C1】 マイクロソフトセミナー 「DAISYを知り、WordでDAISYを作ろう」 濱田 麻巨(NPO法人 支援技術開発機構)・大島 友子(マイクロソフト株式会社)	視覚障害だけでなく、読字障害、発達障害の方への活用が目目されていて、教科書の提供も開始されたDAISYの概要と、Microsoft Word でDAISYを作成できるようになるWordのアドオンソフト「DAISY トランスレータ」について、実際にデモを見ていただきながら、ご紹介いたします。
17:00-19:00	スワン	■【No.1-9-S】 レセプション	カンファレンス終了後(17:00-19:00)に会場内でレセプション(懇親会)を開催します。参加ご希望の方は、事前にお申し込みください。参加費は5,000円です。当日も若干名は受付をいたしますが、定員になり次第締め切らせていただきますので、ご了承ください。

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
9:10-10:00	Annex2	■【No.2-1-A2】 障害・コミュニケーション 「身近にあるテクノロジー(アルテク)を活用した特別支援教育・就労」 岡 耕平(東京大学) 「携帯電話の支援機能と活用」 青木 修一(NTTドコモ)	「身近にあるテクノロジー(アルテク)を活用した特別支援教育・就労」 世界的に福祉機器展示会で展示される障害支援技術の規模が小さくなりつつある。その要因のひとつに一般製品の機能の中に、支援技術として活用できる機能が備わりだしたことがある。このような身近にあるテクノロジー(＝アルテク)を支援技術として活用することは、今後の支援技術を考えるうえで重要になるだろう。本セミナーでは支援技術として使えるアルテクと、そのアイデアについて紹介する。 「携帯電話の支援機能と活用」 NTTドコモは“一人ひとりに”をテーマにどなたにも使いやすく携帯電話をご利用いただけるよう取り組んでおります。ドコモの携帯電話ラインナップにはさまざまな配慮機能が搭載されています。今回その配慮機能を「見やすさ」「聞きやすさ」「操作のしやすさ」「わかりやすさ」に分けてご紹介いたします。また携帯電話は機能の充実により、生活のさまざまなシーンに活用が広がっており、事例をご紹介いたします。
	C1	■【No.2-1-C1】 支援技術【対談】 「1990年に支援技術を使い始めた人の今～20年で人はどう変わったか?～」 三谷 泰男・中邑 賢龍(東京大学)	三谷泰男さんは四肢まひと言語障害があります。80年代からPCを駆使して様々な活動に参加してきました。機器の性能は向上し、インターネットなどの社会インフラが整備されてきましたが……。パソコンがもたらす笑いと涙の波乱万丈な人生。果たして彼に幸せは訪れたのか?20年を対談で振り返ってみます。
	C2	■【No.2-1-C2】 日本作業療法士協会セミナー 「作業療法士のIT活用支援テクニック」 高橋 知義(こぐま福祉こぐま学園 作業療法士)	重度な運動障がいをもつ子どもたちは、様々な興味や意欲はあるものの、「動けない」「うまくできない」「伝わらない」といったことにより、日々の生活の中で充足感を持っていない、経験不足であったりすることが多い。今回、作業療法士がITを活用することで、重度な運動障がいをもつ子どもたちの遊びや生活に変化が認められた。これまで関わってきた子どもたちの事例を通してIT活用支援のテクニックを伝える。 ※11:10-12:00のセミナーと同内容となります。
	F	■【No.2-1-F】 制度 「世界の先端支援技術の動向」 巖淵 守(東京大学)	科学技術が日々発展を遂げる中、支援技術はどのように変化してきているのでしょうか。2010年に開催された欧米における支援機器の展示会やカンファレンスで見かけた新しい支援技術製品から、最先端技術を駆使したもの、斬新なアイデアに富んだもの、デザインが洗練されたものなどを紹介すると同時に、最近の動向を探ります。
	G	●【No.2-1-G】 自主セミナー 「スイッチを使った肢体不自由教育の頂点見せます 一信州特別支援教育情報誌「slide」冬の特大号IVol.1」 矢島 悟(長野県飯田養護学校)	2010年の幕開けとともに、長野県特別支援学校教員により発行された同人誌「信州特別支援教育情報誌「slide」」。その「slide」連載陣が、ペンをマイクに握り替え、ATACにて冬の特大号IVol.1は「スイッチ特集」。「やりたい」「できる」を実現する様々なスイッチ教材、600円で作れる格安VOCA、コミュニケーション環境設定のためのアセスメント等々。時代に灯りをともす匠達によるスイッチ特集です。
9:10-12:00	H	★【No.2-1-H】 研究・実践発表 「発達障害の支援ツール」 ・セルフサポートシート作成支援ソフトウェアの開発 ～「自分の特性を自分で伝える」の実現～ 小川 修史(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) ・自閉症の生徒への視覚的教材教具 一学校生活で自立した生活行動をするための板磁石やカードを使った実践一 関根 優子(武庫川女子大学大学院)	「セルフサポートシート作成支援ソフトウェアの開発～「自分の特性を自分で伝える」の実現～」 「発達障がい者自ら」が「自己の特性を相手に伝達する事」を目的としたセルフサポートシートの作成を支援するソフトの開発過程について紹介する。パソコンの操作に対して抵抗が少ない広汎性発達障がい者は多く存在することに加え、苦手傾向がある文章作成の部分をソフトが支援することで、作成にかかる負担の軽減が期待される。本発表では当事者へのインタビューを通じた開発過程を中心にシステムの概要について説明する。 「自閉症の生徒への視覚的教材教具 一学校生活で自立した生活行動をするための板磁石やカードを使った実践一」 自閉症の特性のひとつには、見通しについての困難さがみられることもある。本発表では、自閉症の生徒が安定した学校生活を送ることを課題として取り組んだ、教材教具についての実践を報告する。本教材教具は、身近に手に入る素材であり、簡易な使用方法であること、シンプルな提示機能という特徴がある。その板磁石とカードを用いたトレーニングを当該生徒に行うことで、学校生活の質の向上に有効であったという結果が得られた。
	101	■【No.2-1-101】 専門家と語る 「ATACとの出会いと意識の変化」【定員20名】 坂井 聡(香川大学)	専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切った疑問に感じている事、分からない事をぶつけてみて下さい。 私は1985年から18年ほど特別支援学校の教員をしておりました。体育会系でサッカーもずっとならしていたことから障がいは乗り越えていくものというように最初は考えていたと思います。こんな状況の中、ATACとの出会いがありました。ここでの出会いが私を大きく変えてくれました。ATACとの出会いから、これまでの間に私の心の動きを振り返ります。
9:10-12:00	104	■【No.2-1-104】 玩具福祉学会セミナー おもちゃ展示	最新のおもちゃを展示しています、是非お立ち寄りください。
10:00-11:00	104	■【No.2-2-104】 玩具福祉学会セミナー 「色々なおもちゃ相談」 (玩具福祉学会会員)	おもちゃの専門家が、障害のある子どもの相談に応じます。
10:00-13:00	Annex2	★ポスター発表	10:00～11:10、12:00～13:00 掲示は、上記の期間中行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。責任発表時間については、それぞれのブースにてご確認ください。同会場でセミナーも行われております。セミナー時間中の閲覧はご遠慮ください。

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
10:10-11:00	Annex 1	■【No.2-2-A1】 一般公開講演 講演5 「電子書籍の登場が変える読書体験」 新名 新(角川書店 常務取締役)	昨今世の中を騒がせている電子書籍の登場によって、我々の生活はどのように変化するのか。日本語障壁を越えて進出しようとしているamazon、Apple、Googleなど世界的大企業から、ケータイコミックなどで独自の発展を遂げた国内企業まで、電子書籍をめぐる最新の動向を紹介しつつ、予想されるその大きな変化を書籍の利用者(読者)、書籍の作者(著者)、書籍の制作・流通者(出版社・書店など)の3つの観点から語る。
10:10-14:40	502-507	■【No.2-0-5F】 障害理解プログラム リビングライブラリー 【定員制】	リビングライブラリーは予約制であるため、ご利用にあたって、リビングライブラリー受付(Room 102 前)で登録・貸出予約の手続きが必要です。「生きている本」は、一人で借りていただいても、グループで借りていただいても結構です。蔵書のリストや閲覧方法の詳細についてはリビングライブラリー受付(Room 102 前)にてお尋ねください。
11:10-12:00	Annex2	●【No.2-3-A2】 自主セミナー 「シンボルを使った教育の頂点見せます 一信州特別支援教育情報誌「slide」冬の特大号IVol.2」 本田 佑介(長野県伊那養護学校)	2010年の幕開けとともに、長野県特別支援学校教員により発行された同人誌「信州特別支援教育情報誌「slide」」。その「slide」連載陣が、ペンをマイクに握り替え、ATACにて冬の特大号IVol.1「スイッチ特集」に続くVol.2は「シンボル特集」。かわいらしさ抜群!の「Drops」(ドロップス)。手描きに特化した「bo-symbol」(ぼーしんぼる)。時代を象徴するシンボルフリークが夢の競演!
C1	C1	■【No.2-3-C1】 支援技術 「ATとAACはどこに行くのか?」 パネルディスカッション」 畠山 卓朗(早稲田大学)・渡辺 崇史(日本福祉大学)・巖淵 守(東京大学)・中邑 賢龍(東京大学)	この20年間、ATとAACは大きな役割を果たしてきました。しかし、近年、携帯電話などの一般製品で障害のある人もATを使わなくてもコミュニケーションが可能になり、特別なAAC機器を使わなくてもICレコーダで音声代替が出来るようになってきました。ATやAACの役割は終わったのでしょうか?これからのATとAACがどんな役割を負っていくのが考えてみます。
			■【No.2-3-C2】 日本作業療法士協会セミナー 「作業療法士のIT活用支援テクニック」 高橋 知義(こぐま福祉こぐま学園 作業療法士)
F	F	■【No.2-3-F】 制度 「なぜ、我が家は…ゆかいな家族なのか? ～自閉症ノブの子育てから見た20年の教育・福祉・社会の変化～」 丸岡 玲子(特定非営利活動法人ふあみりい、NOTE理事長)	昭和から平成になって約20年経ちます。この20年間のあいだに、教育、福祉の世界はめまぐるしく変化しています。我が家の自閉症青年ノブの子育ての中で関わってきた教育、福祉…。そのときはまったく意識もせずに、その時代の支援を利用してきました。ノブは来年30歳になります。そこで、ノブが育ってきた過程で、教育、福祉はどんな感じだったのかを振り返ってみましょう。そこには、時代の変化を受けながら、我が家の「変わっていった部分」と「変わらない部分」が見えてきます。これから福祉の制度がどう変わっていくのかよくわかりません。どんな形になるにせよ、我が家は常にゆかいな家族であるために、これまでも振り返りながら、これからは備えたいと思います。そんな我が家話をお聞かせしたいと思っています。
G	G	●【No.2-3-G】 自主セミナー 「自分で作るデジタル教材 読みたい物を、読みたい時に、読みたい場所で! 個々の子どもに応じた世界に一つの電子書籍を作ってみよう」 高松 崇(memis)	電子書籍元年と言われる2010年も終わろうとしています。電子書籍のリーダーもこれから続々と発売されると思いますが、問題は一番肝心なコンテンツ(デジタル書籍)にあると思います。アクセシビリティに考慮したデジタル教材は、DAISYも含めてアイデア次第でさまざまな方法で作成することが出来ます。個別の子ども達に対応できる世界で一つのオリジナルなデジタル教材の作り方やヒントをご紹介します。
H	H	★【No.2-3-H】 研究・実践発表 「肢体不自由児とのコミュニケーション」 ・コミュニケーションブックの実践報告 ～伝える楽しさ、伝える喜びを感じるコミュニケーション～ 田中 優子(鳥取県立皆生養護学校)	「コミュニケーションブックの実践について ～伝える楽しさ、伝える喜びを感じるコミュニケーション～」 自分の要求や思いを正確に伝えることができる手段を身につけることを目指し、昨年度からコミュニケーションブックを使ったやりとりに取り組んでいます。コミュニケーションブックを使って、子どもたちが生き生きと自分の思いを伝えるようになっていった過程を、事例をもとに紹介します。
			・重度の肢体不自由のある児童へのPowerpointによるVOCAを活用したコミュニケーション支援 原 伸生(長野県立小諸養護学校)
101	101	■【No.2-3-101】 専門家と語る 「読み書き障害のある子ども達にどのような支援をすればいいのか?」【定員20名】 河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校)	専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切った疑問に感じている事、分からない事をぶつけてみて下さい。 読み書き障害があると、読めるようにしよう書けるようにしよう、となりがちです。でも、それだけでいいのでしょうか?道具を上手に使って読み書きの困難を回避し、学習に向き合っている事例を紹介します。読み書き障害のある子ども達への支援について語り合いませんか?

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
12:00-15:00	C1	■支援機器展示	e-ATセミナーを行う企業による支援機器展示を行います。パシフィックサブライ／トビーテクノロジージャパン／テクノスジャパン／富士通／トーキングエイド開発プロジェクト フリードリンクを準備しております。お気軽にお越しください。
12:00-12:50	C1	■【No.2-4-C1】 e-ATランチセッション「VOCA「リンゴ」の事例報告と現在のAAC事業のご紹介」 (株)パシフィックサブライ	優れた一般製品の福祉転用が進む中、障害者や高齢者に向けた支援機器も新しいアイデアや技術が投入され、新しい風が吹き始めています。本セッションでは、支援機器の今後の方向性が垣間見えるテーマを集めて皆様にご紹介したいと考えております。 12時から3時までC1のセミナールームでは、セッションと並行して支援機器の展示を行い、フリードリンクを実施いたしております。セッションを聞くもよし、支援機器の操作体験をするもよし、歓談するもよし、休憩するもよし、是非、お気軽にe-ATセッションにご参加ください。 本セッションは、お弁当付き(無料)のセッションとなっています。お食事をとりながら、セッションをご聴講いただけます。お弁当に関しては、12日の朝、受付にて整理券を配布いたします。多数の場合は、抽選とさせていただきますので、予めご了承ください。 お客様のQ.O.L向上を目指して、弊社で取り組んでいる事業をご紹介します。 1)VOCA「リンゴ」事例報告。ご利用者様の利用状況をご紹介します。 2)AAC機器有償レンタル。1ヶ月\3,000、3ヵ月\5,000を基本とした機器のレンタルサービス 3)ユーザー登録とお客様サポートサービス。登録された方の元へ1ヵ月後、6ヵ月後に訪問し機器のメンテナンスや使用方法のご説明に伺うサービス
12:10-13:00	Annex1	■【No.2-4-A1】 一般公開講演 講演6 「『クラウド時代の先にあるもの』～変貌するパソコン・携帯電話～」 小関 貴志(株式会社 セールスフォース・ドットコム シニアディレクター)	インターネットによって我々の生活や仕事は大きく変容しています。障害のある人にとっても様々な変化が起こっています。クラウドコンピューティングという言葉が聞かれるようになりました。この新しいネットワークサービスによって、何が出来るのか、そして社会がどのように進んでいくのかを語ります。
13:10-14:20	Annex2	■【No.2-5-A2】 障害・コミュニケーション 公開ケースカンファレンス2 「自閉症の子どもの支援をみんなで考える」 坂井 聡(香川大学)	ここでは、いくつかの事例を紹介し、生活上の困難を解決するためのアイデアを議論していきたいと思っております。紹介する事例は多少の脚色はありますが、実際にあったものを紹介しています。少し視点を変えてアイデアを出し合うことが出来れば、きっと新しい方向性が見いだせるのではないかと思います。みんなで色々考えることにしましょう。
13:10-14:00	C1	■【No.2-5-C1】 e-ATセッション「様々な支援技術を体験しませんか?」(機器展示あり) 13:10-13:30 ・視線入力装置マイトビー トビーテクノロジー・ジャパン(株) 13:40-14:00 ・必見!いよいよトーキングエイドがiPadに 新トーキングエイド開発プロジェクトチーム"	優れた一般製品の福祉転用が進む中、障害者や高齢者に向けた支援機器も新しいアイデアや技術が投入され、新しい風が吹き始めています。本セッションでは、支援機器の今後の方向性が垣間見えるテーマを集めて皆様にご紹介したいと考えております。 12時から3時までC1のセミナールームでは、セッションと並行して支援機器の展示を行い、フリードリンクを実施いたしております。セッションを聞くもよし、支援機器の操作体験をするもよし、歓談するもよし、休憩するもよし、是非、お気軽にe-ATセッションにご参加ください。 「視線入力装置マイトビー」 視線を使って文章を書いたり、定型文を読み上げたり、インターネットやメールをすることができる、視線入力装置マイトビーのご紹介 「必見!いよいよトーキングエイドがiPadに」 (株)バンダイナムコゲームス／(株)日立ケーイーシステムズ／(独)産業技術総合研究所／(NPO)e-AT利用促進協会の4団体がチームを組み、コミュニケーションエイドのベストセラー商品「トーキングエイド」をiPadで稼働する次世代コミュニケーションエイドとしてリリースすべく開発をスタートさせました。その概要を紹介し、みなさまのご意見も頂戴したいと思います(本開発は平成22年度厚生労働省 障害者自立支援機器等開発事業です)。
	104	●【No.2-5-104】 日本作業療法士協会セミナー 「自助具やスプリントを用いて『活動』を『できる』ようにする支援」 森田 傑(大阪発達総合療育センター 作業療法士)	作業療法士が活動支援を進めていく時、「『活動』を分析」し、「対象児者の機能を見きわめ」、「道具・器具を対象児者と調整」し、「『できる』ように援助するという視点を持っています。その時に、自助具やスプリントなどを活用することがあります。スイッチなどと組み合わせることで重度の障害がある子どもたちの「活動」を「『できる』ように支援していきます。今回は、それらを活用するための方法やポイントを紹介します。
	F	★【No.2-5-F】 研究・実践発表 「IT支援と制度」 「障がい児・者への工学的支援活動の紹介 縄手 雅彦(島根大学 総合理工学部) ・重度障害者に対するIT支援 当院障害者施設等一般病棟での取り組み 鈴木 充紘(会田記念リハビリテーション病院 作業療法士)	「障がい児・者への工学的支援活動の紹介」 本研究室では、2003年より近隣の医療福祉施設や特別支援学校等における障がい児・者へのリハビリテーション支援や療育支援への情報機器の活用に関する実践研究を行ってきた。本報告ではそれらの活動について紹介する。 「重度障害者に対するIT支援 ～当院障害者施設等一般病棟での取り組み～」 昨今、障害者に対するIT支援が進められているが、作業療法における効果、検証の報告は少ない。そのため、本研究では、重度障害者に対するIT支援の介入と効果を検証すると共に、その意義と必要性について検討した。介入の結果、社会参加の拡大とQOLの向上が得られた。作業療法士がITを活用して支援する際には、技能を向上させるだけでなく、その人らしさを引き出すための、包括的な評価・介入が必要であると考えます。

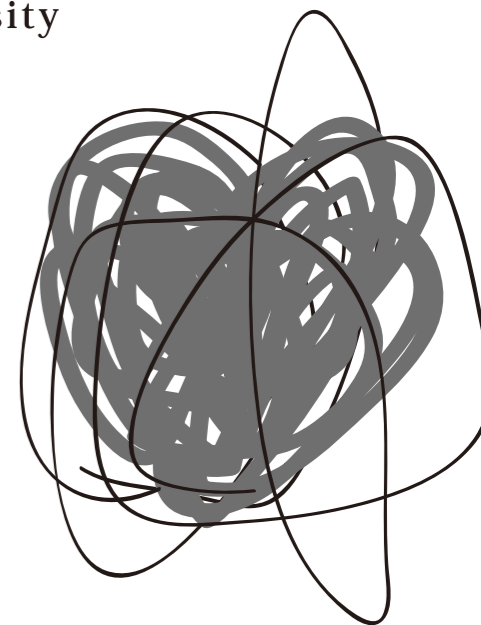
時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
13:10-14:00	G	●【No.2-5-G】 自主セミナー 「重度重複障害の子どもたちの能力を引き出すオモチャ遊びの実践 -マジカルトイボックスの実践から-」 金森 克浩(国立特別支援教育総合研究所)	例年東京で行っているマジカルトイボックスイベントの活動を紹介します。マジカルトイボックスは障がいの重い子どもたちのコミュニケーションを豊かに出来ないかという趣旨で、AACやATをその考えの中心におきながら、多くの人と交流を図ってきました。今回も例年と同様にイベントで作られた冊子の紹介、製作講座で作ったスイッチやおもちゃの紹介、事務局スタッフが日々実践している実践の紹介をします。
	H	★【No.2-5-H】 研究・実践発表 「障害への合理的配慮」 ・未来のウェブアクセシビリティは何を実現するのか? 川路 いず美(NPO法人 みんなのICT) ・私立大学等経常費補助金(特別補助)から見た高等教育機関での障害学生への合理的配慮の現状 田中 芳則(前 名城大学大学院大学・学校づくり研究科)	「未来のウェブアクセシビリティは何を実現するのか?」 「知覚可能」に加え「操作可能」を実現することがウェブの利活用を左右する大きな要因と位置付けられており、HTML5の「ユニバーサル・アクセス」の原則が、あらゆるウェブ利用者に利益と豊かな生活をもたらすことが期待できる。HTML5がウェブアクセシビリティにどのように影響を与えるのか、主にキーボードユーザー、スクリーンリーダーユーザーを対象に具体的に何を実現するのかを明らかにすることを目的に調査・研究を実践した。 「私立大学等経常費補助金(特別補助)から見た高等教育機関での障害学生への合理的配慮の現状」 日本私立学校振興・共済事業団で公開した平成15～21年度の私立大学等経常費補助金(特別補助)のデータに着目し、大学・短期大学・専門学校ごとに公開された障害者受け入れによる金額を整理して予算から見た状況を把握し、積極的かつ支援の充実している地域・高等教育機関を示すことができた。また、その支援状況は西高東低の傾向となっていた。なお毎年16億円余りが交付されて1校当たりの平均助成額は年々減少している。
	101	■【No.2-5-101】 専門家と語る「iPhone・iPadアプリ作成入門」【定員20名】 巖淵 守(東京大学)	専門家と語るセッションは定員20人という少ない人数で講師とやりとりしながら知識を深めていきます。思い切って疑問に感じている事、分からない事をぶつけて下さい。 iPhoneやiPadが学習ツールや生活支援ツールとして障害のある人に役立つという話題が多く聞かれるようになりました。一般に公開されているすでに30万本を超えるiPhone・iPad用アプリには、個人プログラマーが開発したものも多く含まれ、個人であってもApp Storeを通じて、世界中の人に向けてアプリの販売や無料配信を容易に行えるようになりました。自らアプリを作ってみよう、またはアプリ開発の概要を知りたい人のための初心者向け入門セミナーです。プログラミング未経験の人も歓迎します。
14:10-15:00	Annex1	■【No.2-6-A1】 一般公開講演 講演7 「空気の鞆 ～芸術・デザイン・コミュニケーション～」 神原 秀夫(BARAKAN DESIGN)・鈴木 康広(アーティスト)・秋田 麻早子(東京大学)・中邑 賢龍(東京大学)	鈴木さんは「空気の鞆」「ファスナーの船」「瞬きの葉」などの作品を残す現代アーティスト(http://www.mabataki.com/)、神原さんは「かどけし」、デザイン携帯電話「PLY」を手がけたデザイナー(BARAKAN DESIGN http://www.barakan.jp/)、秋田さんは「掘れ掘れ読本」というユニークな著書をもつ美術史家、美術はセンスではなく訓練だと語ります。この3人の楽しい対談が新しいコミュニケーションの方向性を示してくれます。
	C1	■【No.2-6-C1】 e-ATセッション「様々な支援技術を体験しませんか?」(機器展示あり) 14:10-14:30 ・コードレス筋電スイッチとスイッチ切換機の活用 (株)テクノスジャパン 14:40-15:00 ・特別な支援を必要とする子どもたちの生活・学習をサポートする携帯アプリ 富士通(株)	優れた一般製品の福祉転用が進む中、障害者や高齢者に向けた支援機器も新しいアイデアや技術が投入され、新しい風が吹き始めています。本セッションでは、支援機器の今後の方向性が垣間見えるテーマを集めて皆様にご紹介したいと考えております。 12時から3時までC1のセミナールームでは、セッションと並行して支援機器の展示を行い、フリードリンクを実施いたしております。セッションを聞くもよし、支援機器の操作体験をするもよし、歓談するもよし、休憩するもよし、是非、お気軽にe-ATセッションにご参加ください。 「コードレス筋電スイッチとスイッチ切換機の活用」 2つの最新支援機器を紹介します。1.AT機器やおもちゃを「おでこ」で簡単に操作できる筋電スイッチ「オデコン」。装着が簡単で、しかもコードレスという、画期的な製品です。2.各種入力スイッチで機器操作と呼び出しが簡単に切り換えられるマルチスイッチボックス「パーソナルコール」。音とランプで操作の確認ができるスグレモノです。 「特別な支援を必要とする子どもたちの生活・学習をサポートする携帯アプリ」 携帯電話を活用して特別な支援を必要とする子供たちの生活・学習をサポートする、特別支援携帯アプリについてご紹介します。時間の理解を支援する「タイマー」、コミュニケーションや見通しを支援する「絵カード」、漢字の筆順の理解を支援する「筆順」の各アプリについてご紹介します。また、アプリを使用した効果については、共同で研究を実施した香川大学 教育学部 坂井聡先生からご紹介いただきます。

■:ATACセミナー ●:自主企画 ★:研究・実践発表

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
14:10-15:00	104	■【No.2-6-104】 e-ATセッション 「様々な支援技術を体験しませんか？」(機器展示あり) ・イーブルネット社会話補助装置「スーパートーカー」を用いた就労事例と就労支援の取り組み紹介 松井 由起子(パシフィックサブライ株式会社)	優れた一般製品の福祉転用が進む中、障害者や高齢者に向けた支援機器も新しいアイデアや技術が投入され、新しい風が吹き始めています。本セッションでは、支援機器の今後の方向性が垣間見えるテーマを集めて皆様にご紹介したいと考えております。 12時から3時までC1のセミナールームでは、セッションと並行して支援機器の展示を行い、フリードリンクを実施いたしております。セッションを聞くもよし、支援機器の操作体験をするもよし、歓談するもよし、休憩するもよし、是非、お気軽にe-ATセッションにご参加ください。 「イーブルネット社会話補助装置「スーパートーカー」を用いた就労事例と就労支援の取り組み紹介」 私たちは支援機器をたくさん販売しています。教育や療育現場では多く活用されていますが、働く現場ではどう役立つのでしょうか。働く現場での支援機器の可能性や、障がいのある人が必要とする職場環境を学び、障がいがあっても働きやすくなる社会にしたい。2010年3月より開始した就労支援への取り組みと実際の就労事例、その取り組みの中で気づいたこと、学んだことをご紹介します。
	104	●【No.2-6-F】 制度 「福祉制度の変革と現状」 渡辺 崇史(日本福祉大学) 「名古屋における日常生活用具評価事業(試行)の実施について ～視覚障害者向け機器を対象に～」 田中 芳則(なごや福祉用具プラザ)	「福祉制度の変革と現状」 障害者自立支援法は、これまで多くの問題点が指摘されてきました。現在では2013年8月までに新たな総合的な福祉法制を実施するという合意に至り、より活発な議論が展開されています。一方、福祉用具や各種支援機器を入手するための制度は、取扱い品目等について数回の改正がされています。今回は福祉用具、支援機器の給付制度の概要を主として、福祉制度の変革と現状について概説します。 「名古屋における日常生活用具評価事業(試行)の実施について ～視覚障害者向け機器を対象に～」 障害者日常生活用具給付制度が平成18年10月より市町村事業となり、その判断は各市町村にゆだねられ品目選定などは各々異なる状況にある。今回、なごや福祉用具プラザが名古屋市より依頼を受けて、視覚障害者向け機器1機種の評価を行い、同制度での対象品の認定可否に向けての判断材料を提供することとなった。モニタによる評価および、工学的評価を行い、その結果、平成22年4月より対象品として認められることとなった。
	G	■【No.2-6-G】 学習教材を考える 「視覚障害(弱視)や学習障害(ディスレクシア)のある小学生の学習に役立つ漢字教材開発をめざして」 成松 一郎(読書工房)・鳥海 修(字遊工房)	小学校3年生で学習する漢字200字について、わかりやすく漢字を覚えるために役立つ教材として、大きな文字版(22ポイント)と電子版(筆順のアニメーションと音声収録)を試作しましたのでご紹介します。また、今回、「教科書体」と「丸ゴシック体」それぞれの良さを生かした中間書体を開発してみましたので、デザインの考え方についてお話しします。
	H	■【No.2-6-H】 研究発表 「異分野との融合から生まれる科学 障害を数学で説明する」 三木 大史(ノートルダム女学院)・河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校)	自閉症者のいわゆる「『俺ルール』論理」と定型発達者の「常識的な論理」が出会うところ何が起こるのかについて数学の論理を分析する手法で分析し、両者がお互いにわかりあえるとはどういうことかを考えてみます。「『俺ルール』論理」も「常識的な論理」も数学の記号で記述すると、いずれも形の上で対等な「論理」となり、その間のコミュニケーションの成立とは何なのかを解説します。二人の講演者がそれぞれの論理を使って話し、意思疎通ができたりできなかったりするという実演も交えて講演を進めます。
15:10-15:30	Annex1	■【No.2-7-A1】 一般公開講演 Closing 「がんばる社会から配慮ある社会へ 一支援技術とAACの20年の歩みを振り返り、未来を語る」 中邑 賢龍(東京大学)	この20年、みんながんばり続けて社会全体が少し疲れたような気がします。自分ではどうにもならない動きに巻き込まれて、どこに行ってしまうか分からない不安につつまれています。そんな時、だからこそ頑張ろうと考え、ますます疲れ果て、不安になってしまいます。今こそ少し休んで、様々な新しい考えを吸収できれば…ゆっくりと物事の本質を見つめることができれば…何か今までと少し違う発想で、少しだけ前に進んで行けるはずですよ。

リビング ライブラリー

Understanding Diversity



リビングライブラリーでは、障害のある人や薬物依存者、セクシャルマイノリティなど、様々な経験をもつ当事者を「生きている本」として貸し出します。読み手は、本を借りることで、30～45 分間、語り部である本と対話を行うことができます。

ぜひこの機会に、本の語りに耳を傾けてみませんか？

蔵書リスト

教壇に立つと生徒がザワッ ～トランスジェンダー先生の新学期の風物詩～ いつき (トランスジェンダー)	わかっちゃいるけどやめられない めば(薬物依存からの回復途上者)
路上で暮らす私の一日 濱田進(ホームレス経験者)	「わたしのうごき」を創り出す ～脳性まひのお医者さんの診療風景～ 熊谷晋一郎(脳性まひ当事者,小児科医)
ゆっくりしていねいにつなりたい ～アスペルガー症候群のわたしの感じ方～ 綾屋紗月 (アスペルガー症候群当事者)	戸籍の名前を変えた訳 トーマス(日米のクォーター)
見えない僕のポルノ鑑賞 大河内直之&天野克彦(視覚障害当事者と支援者)	恐竜を造る 竹内信善(模型作家)
障害者一家ですけど…なにか? 奥山俊博(車いすユーザー)	マジックテープで貼りついた背中 とし(うつ病と暮らす当事者)
薬物から逃れるにはそれしかなかった ～僕がダルクのスタッフになった訳～ カズ(薬物依存からの回復途上者)	さらに数冊の「生きている本」が参加予定! ※ タイトル等は変更される可能性があります

●開館時間:平成22年12月11日(土)12:00～16:00
12月12日(日)9:30～16:00

●場 所:京都国際会館(受付 Room 102 前)
●主 催:ATAC, リビングライブラリージャパン

●お問い合わせ info@living-library.jp http://living-library.jp

※ 本を借りるには、予約が必要です。
11日は10:00、12日は9:00に予約を開始します。

リビングライブラリーへご参加いただく場合には、バリアフリー研究の一環としてアンケートにご協力ください。このアンケートは、今後のリビングライブラリー活動の改善、および、研究報告書に反映されることがございますので、ご了承ください。

一般発表(ポスター発表)

Annex2

掲示は、下記の期間中行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。同会場でセミナーも行われております。セミナー時間中の閲覧はご遠慮ください。

12月11日(土) / 12:00~13:00、14:10~15:00、15:50~17:00

12月12日(日) / 10:00~11:10、12:00~13:00

テーマ／発表者	概要
「障害者施設に住む全介助高齢者のパソコン／携帯電話利用の一例 ーひとりではできることによる生きがいの向上ー」 伊藤 史人(一橋大学)	障害者施設に住む全身マヒの障害を負う女性(68歳)は、携帯電話やパソコンを利用することによって人生環境をよりよいものにしてきた。一般に、障害者施設での生活は単調なものであるが、メール等を利用することで積極的に支援者との交流が持てるようになり、本人の生きがいにもつながった事例を紹介する。また、携帯電話やパソコンの操作を、口で啜えたスティックのみで独学して使いこなす例も挙げた。
「教育支援機器及びソフトウェアの普及ツールに関する研究 ー国立特別支援教育総合研究所・情報関連支援機器展示室「iライブラリー」の紹介ー」 金森 克浩(国立特別支援教育総合研究所)	国立特別支援教育総合研究所に整備している情報関連支援機器展示室「iライブラリー」の活動紹介です。発表では最新の機器の整備と説明のパネル作成、整備した機器やソフトウェアのカタログ作成、Webページを実際に見てもらって紹介します。
「特別支援学校の教員を対象としたe-AT活用教材製作のための技術研修の取り組み ーワンチップマイコンを活用したタイムエイド教材の製作ー」 藏屋 英介(沖縄工業高等専門学校 技術支援室)	沖縄高専では、社会人教育の一環として特別支援学校の教員を対象とし、e-ATを活用した教材の開発、製作を行うためのワンチップマイコンに関する技術研修を実施した。この技術研修では、PICトレーニングボードの製作を通し、工具の使い方、はんだ付けの仕方、電子工作に関する基礎的なこと、C言語によるプログラミングの基礎を30時間のカリキュラムで学び、タイムエイド教材の製作に取り組むものである。
「圧電素子を利用したスイッチ教材の開発」 佐竹 卓彦(沖縄工業高等専門学校)	圧電素子はピエゾ効果を利用し、電気振動と機械振動を相互に変換することが可能な電子部品であり、電子機器のブザーやスピーカーとして多く利用されている。市販されている製品は小型のものやフィルム状のものがあり、肢体不自由者の入力スイッチとして適用可能と考えられる。しかし、圧電素子は単純な接点のスイッチでなく振動により電圧を発生するものであるため、単純にスイッチとして利用することはできない。このため圧電素子をスイッチ動作させるためのアダプタを開発した。本発表では、圧電素子と開発した圧電素子スイッチアダプタを紹介する。
「球状VOCA(KotoDama)を活用したコミュニケーション支援の試み ー障がいの重い子ども達のための応答する環境作りを目指してー」 杉浦 徹(長野県稲荷山養護学校)	障がいの重い子どもたちが今ある力で周囲に働きかけるツールとして球状VOCA(通称Koto-Dama)を試作した。録音再生システム、傾斜スイッチ等をガチャガチャケースに内蔵し、触れる、転がす等の微細な操作で稼働しメッセージが再生されるものである。発表では実際の活動場面、使用方法の紹介と、合わせて実際にKoto-Damaを手にとっていただき、支援のあり方や改善点等広く意見交換ができたかと考えている。
「無料のコミュニケーション・シンボル「ドロップス」の開発と活用事例 ー誰でも、どこでも使えるコミュニケーションエイド その4ー」 竹内 奏子(ドロップレット・プロジェクト)	ドロップレット・プロジェクトはATAC2007で初めてシンボル・ライブラリ「ドロップス」を公開し、大きな反響を得ました。現在ドロップスは多くの現場で活用されています。1000語に拡張されたシンボル・ライブラリと、iPhone用VOCAソフトウェア「ドロップトーク」を中心に、ドロップスの発展と活用の広がりを報告します。
「アクセシブルな学習ソフトの制作に向けて ー多様なスイッチ入力方式に対応したFlash学習ソフトを簡単に作るためのソフトウェアの開発ー」 竹島 久志(仙台高等専門学校)	オートスキャン等のスイッチで操作可能な学習ソフトは、プログラムが複雑であるため制作が難しい。そこで我々は、簡単にスイッチ入力に対応した学習ソフトを作るためのソフトウェアライブラリを開発した。Adobe社のFlash に対応している。本ライブラリを組み込むことにより、7種類の選択方式が選択的に使えるようになる。会場では、ライブラリを組み込んだ学習ソフトやライブラリの組み込み方について紹介する。
「知的に遅れのある児童に対するPCを用いた訓練手法の開発」 鶴川 直樹(鳥根大学院 総合理工学研究科)	我々は、脳性麻痺をもつ児童等に対してコンピュータを用いた訓練効果の検証を行っている。そこで、我々は足し算の理解が進むようなツール、時間の概念の理解が進むようなツール、助詞の使い方等の文章をつくる能力の理解が進むような訓練ツールを作成をした。今回の発表ではこれらの訓練ツールについて紹介する。
「音感・触感呈示インタフェースの開発と活用法の検討」 土井 幸輝(国立特別支援教育総合研究所)	昨今の視覚メディアやインタフェース・デバイスの開発は目覚ましい。一方で、聴覚・触覚関連はまだまだこれからといったレベルである。近年、公共施設や家庭内での触覚の活用の必要性が指摘され、触れることでしかわからない情報を獲得する経験は非常に重要である。ここでは、触感の一つである硬さ感覚に着目し、硬さ感覚と音感を同時に感じながら遊ぶことができるインタフェースを開発した。また、活用事例も紹介する。
「発達障がい児童の支援における工学的手法」 友永 啓太(鳥根大学大学院 総合理工学研究科)	我々は発達障がいのある児童への支援としてPCを用いたゲーム形式の検査・訓練ソフトウェアを開発し、そのソフトウェアの検証を行っている。今回の発表では、自閉傾向がある児童に対する心的回転を利用した多面的な見方 をする能力の検査、図形または文字の言語化や作業記憶の検査、PCを利用した学習教材の作成を支援するツールや、これまで我々が開発してきたソフトウェアをポスターで紹介するとともに、実際に体験してもらう。
「iPhone用コミュニケーションアプリ『ねえ、きいて。』 ー スマートフォンを利用したコミュニケーション支援ツールの開発 ー」 鳥居 一平(愛知工業大学 情報科学部)	意思伝達支援手法としてのコミュニケーションツールは数多く出ているが高価なものが多い。多機能であるほど操作が複雑で使いにくい。そこで、私たちは無料で伝えやすく楽しい、iPhone・iPad用コミュニケーションツール『ねえ、きいて。』を開発することにした。

テーマ／発表者	概要
「ATを活用したリズム遊びから集団活動の場へ ー沖縄高専とのAT機器の共同開発とその普及に向けてー」 野口 智徳(沖縄県立桜野特別支援学校)	本稿は、電子ドラムとPCへの入力として圧電素子を利用したAT機器を開発した。手指に麻痺のある児童が楽器を叩くことができない経験を、このAT機器を利用することで自由に楽器音を鳴らすことができるようになった。その結果、主体的に集団活動に参加できるようになった。また、県内の特別支援学校の教員を対象に、AT機器の製作講習会を実施し、ATに対する知識を深める取組みを実施した。
「障害の重度化と多様化の進む特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジー活用事例 ー活用事例の体系的整理と事例にみる個別の指導計画への位置付けと評価の内容ー」 棟方 哲弥(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所では、平成21年度～22年度にかけて「障害の重度化と多様化に対応するアシスティブ・テクノロジーの活用と評価に関する研究」を実施しています。この研究では、活用事例の体系的整理の枠組み、これまでの事例の分析、これに平行して、それぞれの障害種別における新たな活用事例をまとめています。最終的にはケースブックを作成して全国の特別支援学校へ配布する予定です。本ポスター発表では、これまでの研究活動とその中間的成果を報告し、参加の方々からケースブック(試案)などへのご意見をいただきたく存じます。

書籍展示

企業名	書籍内容
有限会社 スペース96	障害者関係専門書店
こころリソースブック出版会	コミュニケーション支援を中心とした書籍の販売

ATAC(エイタック)カンファレンス2010事務局

〒103-0013 中央区日本橋人形町2-21-1-601
特定非営利活動法人 e-AT利用促進協会 内
Tel:03-6661-6439 / Fax:03-6661-6440
e-mail:atac2010@e-at.org
URL:http://www.e-at.org/atac